



低炭素杯 2018報告書

Low Carbon Challenge Cup Report





低炭素杯

とは？

「低炭素杯」は、次世代に向けた低炭素社会の構築を目指し、多様な主体が取り組む、地球温暖化防止に関する活動を発表することにより、取組のノウハウや情報を互いに共有し、さらなる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」となることを目指し、平成22年度から開催しています。

8回目を迎える低炭素杯2018は、ダイレクトエントリーと地域大会(8地域大会)の計1,167団体の中から選ばれた30団体がステージ上のプレゼンテーション審査に臨み、環境大臣賞や文部科学大臣賞などの各賞を決定いたしました。

開催にあたっては本事業に賛同していただいた企業・団体の皆様からのご支援・ご協力をいただきました。

目次

低炭素杯とは	2
低炭素杯2018 挨拶	3
開催概要／委員のご紹介	5
エントリー募集から「低炭素杯2018」開催までの流れ	6
優良賞団体とは？	6
ファイナリスト30団体	7
開催プログラム	8
受付の様子／ポスターセッション／ステージプログラム	9
低炭素杯2018 アンバサダー ルー大柴さん／交流会	10
低炭素杯2018 表彰式	11
低炭素杯2018 受賞者一覧	12
ファイナリスト紹介	15
ファイナリストの声	39
来場者の声	40
ゲスト審査員の声	41
低炭素杯2018 広報掲載一覧	42
ご協力いただいたみなさまのご紹介	44
ご寄付いただいたみなさまのご紹介	45
〈参考情報〉これまでの歩み	46
低炭素杯2019に向けて	47

低炭素杯2018 挨拶



低炭素杯実行委員会委員長

小宮 宏

皆さん!「低炭素杯2018」のファイナルステージに、ようこそお越し下さいました!

低炭素杯実行委員長の小宮山宏です。昨年の暮れにドイツのボンで「COP23」が開催されました。

そこでは、2016年11月に発効したパリ協定をどのようにして実行に移していくのか、世界規模で国や自治体、企業やNPOなどすべての主体の取組をどうやって進めるのかについて、話し合われました。

異常気象など、現在の地球規模の気候変動を見ると、今後は「低炭素」からもう一歩さらに進めた「脱炭素」に向けた動きが必要になってくるのではないのでしょうか。

こうしたグローバルな視点からも、皆さん!この低炭素杯を、ぜひ、しっかりとご覧になってください!

日本各地で、地球温暖化防止、CO₂削減、低炭素社会の構築などにむけて取り組む学生、企業、自治体、そして団体の方々などに加えて、低炭素杯2018からはジュニア・キッズという新しい部門が新設され、小学生や中学生などの代表も多く参加してくれています。

たとえ小さな一歩であっても、そのチカラが集結すれば、地球規模での温暖化防止に役立っていくに違いありません。

今日の晴れの舞台に立つ数々の取り組み、取り組む人たちの姿を、会場にいらっしゃる皆さんもぜひ目に、そして記憶に焼き付けていってください!

それでは皆さん、「低炭素杯2018」スタートです!

2018年2月15日

低炭素杯2018 挨拶

環境大臣政務官 笹川 博義



環境大臣政務官の笹川 博義でございます。

「低炭素杯2018」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

2011年の初開催から数えて8回目を迎えた今年の「低炭素杯」には、全国1,167もの団体からの参加をいただきました。

今日は、30の団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されたと伺っております。

プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

皆様御存知のとおり、我が国は、2030年度26%の温室効果ガス削減を実現するため、着実に地球温暖化対策に取り組んでいかなければなりません。そのためには、私たち一人一人が、地球温暖化の危機的な状況を正しく理解し、生活のあらゆる場面で、低炭素型の「製品」・「サービス」・「ライフスタイル」を賢く選択する「COOL CHOICE」を心がけ、脱炭素社会を目指して、地球温暖化対策を一層進めていただく必要があります。

本日、この場に集われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、御地域の皆様に地球温暖化対策の取組の自発的な行動を促していただき、地球温暖化防止活動の輪を、一段と広げていってくださいますことを、心より御期待申し上げます。

結びになりますが、地球温暖化防止活動について学びあい、連携の輪を広げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた実行委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2018年2月15日

文部科学省大臣官房審議官 神山 修



低炭素杯2018表彰式の開催にあたりまして、一言御挨拶いたします。

本日、各賞を受賞される皆様におかれましては、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において、素晴らしい取組をされているものと承知しております。改めて皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

今、「人生100年時代」とも言われる中、「人生100年時代構想会議」が設置されて議論が行われていますが、ある海外の研究によると2007年に日本で生まれた子供については、107歳まで生きる確率が50パーセントあるそうです。こうした人生100年時代に、子どもから若者、そして高齢者まで、全ての国民に活躍の場があり、安心して暮らすことのできる社会をつくるためには、まず地球温暖化防止を始めとする持続可能な社会が不可欠となります。

文部科学省では、国民が、それぞれのライフステージに応じた環境保全への理解と関心を、様々な機会に深めることができるよう、学習指導要領における環境教育の充実や、青少年教育施設における豊かな自然環境を活用した体験活動の推進等、学校教育や社会教育において、環境教育の推進に取り組んでいるところです。

この「低炭素杯」は、地球温暖化防止に関する優れた取組やノウハウを全国に周知するとともに、プレゼンテーションやポスターセッションを通じ、互いに情報を交換・共有し、さらなる活動へ繋げていく、大変素晴らしい取組だと思っております。

本日お集まりの皆様におかれましては、これまで培ってこられた多くの経験や知見を活かし、引き続き、それぞれの地域で御活躍くださいますよう、そして、地球温暖化防止活動に携わる人材をより多く輩出するため、人材育成にもお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、低炭素杯2018の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめ、低炭素杯実行委員会委員の皆様、御協賛・御協力いただきました企業・団体の皆様、事務局の皆様に対し、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

2018年2月15日

開催概要

日 程	2018(平成30)年2月15日(木) 9:30~17:10(9:00開場)
会 場	日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル)
入 場 料	無料(事前登録制)
主 催	低炭素杯実行委員会
共 催	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、株式会社LIXIL
特別協賛	ユニ・チャーム株式会社、株式会社ニトリホールディングス
協 賛	株式会社ウジエスーパー、公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団、 日本マクドナルド株式会社、レンゴー株式会社、株式会社タカラトミー、 エコワークス株式会社、チェックフィールド株式会社、プリンテックス株式会社、低炭素化支援株式会社
協 力	株式会社オルタナ、NPO法人気象キャスターネットワーク、木原木材店(北はりま小径木加工センター)、 こどもエコクラブ全国事務局、ファインモーターズスクール
後 援	環境省、文部科学省、プラチナ構想ネットワーク
事 務 局	低炭素杯事務局(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット)
入 場 者 数	約400名

委員のご紹介

実行委員会

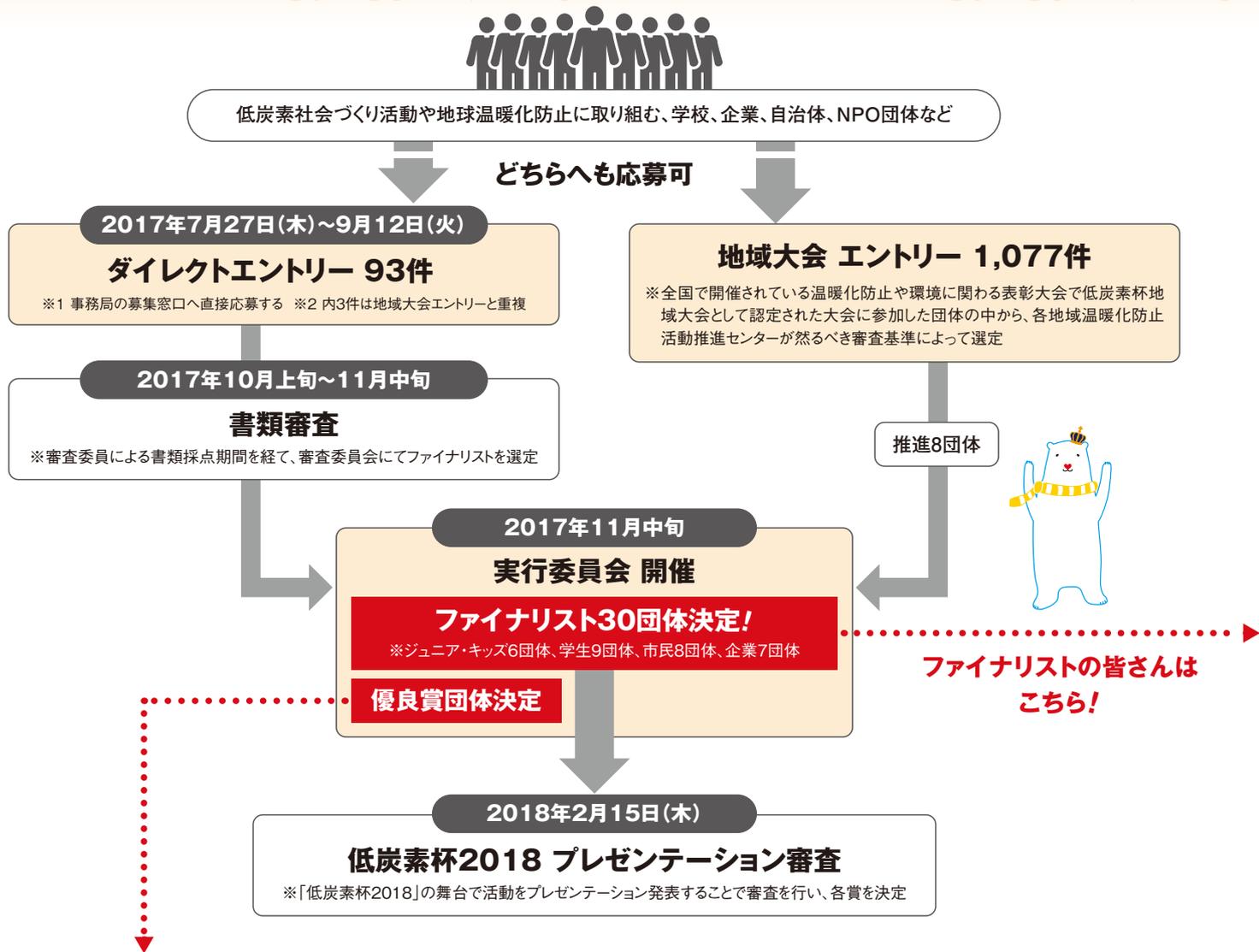
(順不同、敬称略)

委 員 長	小宮山 宏	：株式会社三菱総合研究所 理事長、プラチナ構想ネットワーク 会長、東京大学第二十八代総長
副 委 員 長	金谷 年展	：東京工業大学 科学技術創成研究院 特任教授
	川北 秀人	：IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者CEO
委 員	佐竹 葉子	：株式会社LIXIL理事 Public Affairs部門 広報部 部長
	泉川 誉夫	：全国地方新聞社連合会 副会長
	長谷川公一	：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長
	星 劭	：一般財団法人セブン-イレブン記念財団 理事 事務局長
	増田 直文	：環境省地球環境局 地球温暖化対策課 国民生活対策室長

審査・企業／団体賞選考委員会(審査委員会)

委 員 長	金谷 年展	：東京工業大学 科学技術創成研究院 特任教授
副 委 員 長	岩谷 忠幸	：NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表 事務局長
委 員	石村 令子	：ユニ・チャーム株式会社 CSR本部 環境推進グループ マネージャー
	伊藤 弓子	：株式会社LIXIL Public Affairs部門 広報部 コーポレートレスポンスビリティ推進グループ グループリーダー
	小野 弘人	：一般財団法人セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業 マネージャー
	尾山 優子	：一般社団法人環境パートナーシップ会議 理事 事務局長
	堅達 京子	：株式会社NHKエンタープライズ 制作本部 情報文化番組 エグゼクティブ・プロデューサー
	佐藤 孝治	：公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 事務局長
	高林 慎享	：株式会社タカラトミー 関係会社管理部 社会活動推進課 課長
	玉上 宗人	：株式会社ニトリホールディングス 常務取締役 総合企画室 室長
	桃井 貴子	：認定NPO法人気候ネットワーク 東京事務所長
	森 撰	：株式会社オルタナ 代表取締役 編集長
	吉田 芳弘	：株式会社ウジエスーパー 常務取締役

エントリー募集から「低炭素杯2018」開催までの流れ



優良賞団体とは?

低炭素杯2018では、エントリー団体の中から、ファイナリストに次ぐ優秀な成績を取めた団体に対し、「優良賞」をお贈りしています。今年度は、以下の優良賞受賞30団体に対し、2017年12月に表彰状を贈りました。

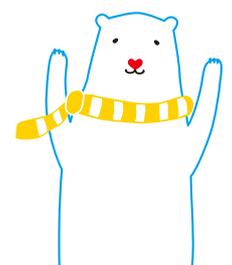
都道府県	団体名称
北海道	札幌市立緑丘小学校
愛媛県	愛媛県南宇和郡愛南町立平城小学校
東京都	東京都西多摩郡瑞穂町立瑞穂第五小学校
東京都	品川区立山中小学校おやこエコクラブ
京都府	京都市立朱雀第四小学校
熊本県	益城町立広安西小学校
鹿児島県	鹿児島市立西伊敷小学校こどもエコクラブ
青森県	青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS
群馬県	群馬県立伊勢崎興陽高等学校
千葉県	千葉大学 環境ISO学生委員会
徳島県	徳島県立新野高等学校 緑のリサイクル・ソーシャル・エコプロジェクトチーム
茨城県	常磐大学 松原哲哉ゼミナール
群馬県	一般社団法人中央ライフ・サポートセンター
新潟県	NPO法人エコネットにいがた
岡山県	特定非営利活動法人co2sos

都道府県	団体名称
千葉県	千葉県 市川市役所
福岡県	NPO法人北九環浄研
静岡県	しおみちエコ運動推進会
鳥取県	彦名地区チビッコ環境パトロール隊
東京都	あきる野営生の森づくり協議会
栃木県	株式会社ツルオカ
鹿児島県	有限会社尾塚水産
東京都	株式会社モンドデザイン
東京都	共和化工株式会社
東京都	KDDI株式会社
大阪府	ブランシエス株式会社
和歌山県	資源リサイクルセンター株式会社松田商店
大阪府	株式会社ODKソリューションズ
熊本県	株式会社エコファクトリー
東京都	パナソニック株式会社 ES社 ハウジングシステム事業部

ファイナリスト30団体 (プレゼンテーション順)

	都道府県	団体名称	取組名
ジュニア・キッズ部門	1	和歌山県 橋本市立あやの台小学校 エコマート	エコマート ～ぼくらの会社で未来を守ろう～
	2	滋賀県 草津市立渋川小学校	『食べて守る琵琶湖の環境』地産地消・エシカル消費が地球を救う
	3	東京都 大田区立大森第六中学校	SDGsの推進
	4	埼玉県 越谷市立大袋東小学校	自然・人・物との関わりを生かした持続発展教育(ESD)の推進
	5	静岡県 学校法人静岡理工科大学星陵中学校	バイオメタンを利用した新しい暮らしを提案する教育プログラム
	6	大阪府 太子町立中学校 社会科学部	地域の良いところを調べて、みがいて、活かす!
学生部門	7	宮城県 宮城県農業高等学校 科学部復興プロジェクトチーム	津波地域を変える 桜・バラと食物連鎖を用いた低炭素社会の構築
	8	岩手県 岩手県立遠野緑峰高等学校	ホップ和紙開発プロジェクト
	9	神奈川県 神奈川県立相原高等学校 畜産部相原牛プロジェクト	地域とつくる 環境にやさしい牛肉生産
	10	鳥取県 米子工業高等専門学校 物質工学科谷藤研究室	二酸化炭素がエネルギー源となる発電装置の開発
	11	佐賀県 佐賀県立佐賀商業高等学校 さが学美舎	SAGA藻(そう)わたしたちのみらい
	12	兵庫県 兵庫県立篠山東雲高等学校	地域資源で特産品を救え! ～農都篠山から循環型農業の発信～
	13	愛知県 愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company部	カーボン・オフセットでCOOL CHOICE! 意識変えテイ炭素
	14	佐賀県 佐賀県立唐津南高等学校 松露プロジェクトチーム	虹の松原再生保全 ～『虹の松原』からの贈り物 松葉の利活用～
	15	大分県 大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜	パークを中心とした循環型農業の展開 校内から地域へⅣ
市民部門	16	大阪府 大阪府 住宅まちづくり部 公共建築室 設備課	大阪府ESCO事業による省エネ・省CO ₂ 化の推進
	17	福岡県 NPO法人循環生活研究所	半径2km単位での食革命ローカルフードサイクリング(LFC)
	18	東京都 認定NPO法人芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館	ウッドスタート～誕生日品で繋げる地域材活用のネットワーク～
	19	宮城県 仙台市	エネルギー自律型まちづくりの推進について
	20	栃木県 NPO法人エコロジーオンライン	Green Power Caravan
	21	神奈川県 区役所通り登栄会商店街振興組合、登戸東通り商店会、多摩区まちづくり協議会 多摩エコスタイルプロジェクト	多摩区商店街エコポイントカード 地域ぐるみでエコを推進
	22	山形県 東根市	東根市環境ISOの取組
	23	静岡県 エコなうつわ屋さん	静岡市初! 食器のリサイクル活動!
企業部門	24	茨城県 倉持産業株式会社	「鶏も人も幸せ」持続可能な低炭素養鶏業PARTII「廃棄物編」
	25	徳島県 株式会社山全	自然環境に配慮した「新しい建設工事モデル」の取り組み
	26	神奈川県 株式会社ファンケル	「置き場所指定お届け」サービス
	27	福島県 富士ゼロックス福島株式会社 無料オリジナルツール事務局	節電ポスター等の無料提供で、全国に「エコの輪」を広げよう!
	28	福岡県 株式会社技術開発コンサルタント	落差が小さい農業用水路等での小水力発電装置開発の実証試験
	29	茨城県 花王株式会社 鹿島工場	砂地にみどりを ～35年間の森づくり～
	30	滋賀県 日産陶業株式会社	電気のいらない陶器の加湿器

おめでとうございます!



開催プログラム

9:30~9:50 (受付開始 9:00)

開会

■ Welcome speech

低炭素杯実行委員会 委員長 小宮山 宏

■ ファイナリスト紹介

■ 審査委員紹介

■ ルー大柴さんからのメッセージ

9:50~13:00

ファイナリスト30団体による プレゼンテーション発表

発表時間 1団体4分

9:50 ジュニア・キッズ部門 (6団体)

休憩 (10分)

10:30 学生部門 (9団体)

休憩 (10分)

11:25 市民部門 (8団体)

休憩 (10分)

12:15 企業部門 (7団体)

12:50 午後プログラムのアナウンス

13:00~14:00

ファイナリスト団体等による ポスターセッション

14:10~15:00

共催企業による ステージプログラム

■ パネリスト

一般財団法人セブン-イレブン記念財団

理事 事務局長 星 劭

株式会社LIXIL EHS推進部 部長 川上 敏弘

■ コーディネーター

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]

代表者CEO 川北 秀人

15:15~17:10

表彰式・閉会

■ 主催者挨拶

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

理事長 長谷川 公一

■ 審査結果発表

■ 閉会の挨拶

低炭素杯審査・企業／団体賞選考委員会

委員長 金谷 年展



認定NPO法人芸術と遊び創造協会 / 東京おもちゃ美術館



東根市



株式会社山全



区役所通り登栄会商店街振興組合、登戸東通り商店会、多摩区まちづくり協議会 多摩エコスタイルプロジェクト



宮城県農業高等学校 科学部復興プロジェクトチーム



富士ゼロックス福島株式会社 無料オリジナルツール事務局



エコなうつわ屋さん



大田区立大森第六中学校



越谷市立大袋東小学校



神奈川県立相原高等学校 畜産部相原牛プロジェクト

受付の様子

会場受付では、トロフィーの展示及び、ファイナリストの資料、共催・協賛企業/団体のご紹介コーナーなど、様々な展示コーナーを設けました。



毎年恒例！ペーパーウェイト 提供：木原木材店様より



インスタコーナー登場

ポスターセッション(13:00~14:00)

4Fホワイエ会場にて、ファイナリスト及び、協賛企業によるポスターセッションを行いました。プレゼンテーション発表で気になった団体に話を聞くなど、情報交換が行われました。



ステージプログラム(14:10~15:00)

「低炭素杯」を共催として支えていただいている「セブン-イレブン記念財団」と「(株)LIXIL」。「なぜ低炭素杯を応援するのか?」という素朴な問いかけに対する想いの丈を語っていただき、実行委員会副委員長である川北氏のコーディネートにより、過去の受賞団体との交流やその後の展開などもご紹介しつつ、企業と社会との関わり合いの核心に迫る熱いトークセッションを繰り広げられました。



低炭素杯2018アンバサダー ルー大柴 さん



1954年新宿に生まれる。

日本語と英語をトゥギャザーした話術を使う独自のキャラクターで活躍。

芸能活動のほか、2007年NHKみんなのうたに採用された「MOTTAINAI」をキッカケに、富士山麓の清掃や地域のゴミ拾いをするなど環境活動にも積極的に取り組む。

趣味はドジョウやメダカの採集、水墨画。

茶道・遠州流師範、山野美容芸術短期大学客員教授も務める。



ルー大柴さんご本人ご登場!

「Nai Nai Nai Nai Nai Nai Nai もったいないよ♪」の曲が流れ、いきなり客席後方から 低炭素杯2018 アンバサダーのルー大柴さんがご登場されました! ステージ上では1フレーズ歌っていただいたり、受賞者とルー語を合図に写真を撮ったりと、会場一同大いに盛り上げていただきました!

交流会 (17:30~19:00)

表彰式終了後にファイナリストや、委員の皆様、ご協力いただいている企業/団体の皆様、地域地球温暖化防止活動推進センター職員などの、低炭素杯に係わる方々にご参加いただき、交流会を開催いたしました。所属している団体の活動内容や規模に拘わらず、情報交換や交流を深めました。

なんと! ルー大柴さんも出席



小宮山委員長からの優秀賞授与!

低炭素杯2018 表彰式



ファイナリストによるプレゼンテーション発表後に開催された「審査・企業/団体賞選考委員会(審査委員会)」において、低炭素杯2018の受賞団体を決定しました。

表彰式では、環境大臣賞グランプリ(1団体)、金賞(各部門から1団体、計4団体)の受賞団体が発表され、笹川博義環境大臣政務官より各受賞団体に賞状とトロフィー等が授与されました。

また、文部科学大臣賞(社会活動分野、学校活動分野から各1団体、計2団体)では、神山修文部科学省大臣官房審議官より各受賞団体に賞状とトロフィー等が授与されました。

企業/団体賞については、各賞提供のプレゼンターから受賞団体(9団体)へ、審査委員特別賞は金谷審査委員長から受賞団体(1団体)へ、オーディエンス賞は川北副実行委員長から受賞団体(2団体)へ賞状等が授与されました。

さらに、アンバサダー特別賞では、低炭素杯2018アンバサダーのルー大柴さんより受賞団体(1団体)に賞状等が授与されました。

環境大臣賞トロフィー



低炭素杯2011から風倒木や朽木を利用した独創的な環境大臣賞トロフィーを制作いただいている齊藤公太郎さん。

木々と暮らす中で地球温暖化を実感し、低炭素杯を応援する想いをトロフィーとして創り上げてくださっています。

今年は、齊藤さん在住の群馬県の樺の倒木と、ますほ里山暮らしを学ぶ会(山梨県)様主催の里山ワークショップで間伐された檜をご提供いただき、トロフィーの素材として用いられました。

文部科学大臣賞トロフィー



低炭素杯2016より、文部科学大臣賞トロフィーを制作いただいているのは、青森県五所川原市の里山に津軽金山焼の窯を開いた松宮亮二さんです。

須恵器の強い影響を受けた津軽金山焼は、薪窯で1,350度の高温でじっくりと焼きあげる焼締めの手法で、土本来の深みのある独特の風合いが特徴です。

夜通し薪をくべ、巨大な登り窯で焼きあげた土のトロフィーからは、低炭素杯に相応しい風格と強いメッセージが伝わります。

低炭素杯2018 受賞者一覧



環境大臣賞 グランプリ



岩手県立遠野緑峰高等学校

環境大臣賞 金賞 ジュニア・キッズ部門



学校法人静岡理工科大学星陵中学校

環境大臣賞 金賞 学生部門



宮城県農業高等学校 科学部復興プロジェクトチーム

環境大臣賞 金賞 市民部門



大阪府 住宅まちづくり部 公共建築室 設備課

環境大臣賞 金賞 企業部門



倉持産業株式会社

文部科学大臣賞 社会活動分野



認定NPO法人芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館

文部科学大臣賞 学校活動分野



草津市立渋川小学校

セブン-イレブン記念財団
最優秀地域活性化賞



佐賀県立唐津南高等学校
松露プロジェクトチーム

LIXIL
最優秀エコライフ活動賞



米子工業高等専門学校
物質工学科谷藤研究室

ユニ・チャーム
最優秀エコチャームング賞



佐賀県立佐賀商業高等学校
さが学美舎

ニトリ
最優秀 夢・未来賞



橋本市立あやの台小学校 エコマート

ウジエスーパー
最優秀エコガニック賞



兵庫県立篠山東雲高等学校

損保ジャパン日本興亜環境財団
最優秀わくわく未来賞



神奈川県立相原高等学校
畜産部相原牛プロジェクト

低炭素杯2018 受賞者一覧

タカラトミー 最優秀次世代賞



越谷市立大袋東小学校

オルタナ 最優秀ストーリー賞



花王株式会社 鹿島工場

気象キャスターネットワーク 最優秀地域・学校エコ活動賞



大田区立大森第六中学校

アンバサダー特別賞



大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜

審査委員特別賞



富士ゼロックス福島株式会社
無料オリジナルツール事務局

マクドナルド オーディエンス賞



草津市立渋川小学校 /
米子工業高等専門学校
物質工学科谷藤研究室

優秀賞

ファイナリストに選ばれたことを称賛し、実行委員会から以下の皆様へ優秀賞を贈呈いたしました。

- ・ 太子町立中学校 社会科学部
- ・ 愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company部
- ・ NPO法人循環生活研究所
- ・ 仙台市
- ・ NPO法人エコロジーオンライン
- ・ 区役所通り登栄会商店街振興組合、登戸東通り商店会、多摩区まちづくり協議会 多摩エコスタイルプロジェクト
- ・ 東根市
- ・ エコなうつわ屋さん
- ・ 株式会社山全
- ・ 株式会社ファンケル
- ・ 株式会社技術開発コンサルタント
- ・ 日産陶業株式会社



優秀賞盾

ファイナリスト紹介



学生部門

環境大臣賞 グランプリ

ホップ和紙開発プロジェクト

岩手県立遠野緑峰高等学校

〒028-0541 岩手県遠野市松崎町白岩21-14-1

☎ 0198-62-2827 <http://www2.iwate-ed.jp/ryo-h/>



遠野市は、ビールの苦みや香りに使われているホップの一大産地です。しかし、毎年200トンの蔓が廃棄されそのほとんどが焼却処分されています。そこで私たちは、試行錯誤の末、廃棄される蔓から繊維を抽出し、世界に類のないホップ和紙を誕生させました。これによってCO₂の削減にもつながっています。またホップ農家の担い手不足が課題で、和紙をとおして新たな農業の魅力を発信し、ホップ農家の産業振興と所得向上を目指しています。



審査コメント

遠野はホップの一大産地であるが、そこで廃棄され焼却処分されている蔓から繊維を抽出し世界初のホップ和紙を誕生させ、それをすでに実用化させた。それに加え効率的な生産工程の確立や化学薬品を一切使わない安全なエコ和紙に仕上げたことなど非常に高く評価できる。さらに和紙作りを通して農業の新しい魅力を発信し、課題である農業の担い手不足解決へのソリューションを提案したり、観光の活性化に繋げたりとすでに大きな成果を形にしている事はまさにグランプリに値する取組と言える。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

この度は、環境大臣賞グランプリという輝かしい賞を頂き高校生活で一番の思い出となり本当に感激しております。受賞後は遠野市民の皆さんからも多くのお祝いの言葉も頂きました。この賞を受賞できたのは、私たちの研究に長い間協力してくださった遠野ホップ和紙を育てる会や多くの市民の皆様の激励とご支援のお陰だと感謝しています。私たちは、このグランプリを新たなスタートとして、さらに環境に負荷をかけないエコな和紙を研究し、遠野の新たな和紙文化の創造と構築を継続し、そして遠野市の産業振興に向け地域と共に頑張っていきたいと思っております。これからも「私たち高校生でもできる」という可能性を信じて和紙を漉き続けていきます！

ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

環境大臣賞 金賞(ジュニア・キッズ部門)

バイオメタンを利用した 新しい暮らしを提案する教育プログラム

学校法人静岡理科大学星陵中学校

〒418-0035 静岡県富士宮市星山1068

☎ 0544-24-4811 <http://www.starhill.ed.jp/jhs/>



本校ではバイオメタンに関する教育・研究活動を展開しています。バイオメタンシステムでは、生ゴミなどの有機性廃棄物から可燃性ガスと液体肥料を生成することができます。これまでに、校内にバイオメタンを生成する施設の設置、出張講義や室内実験と発表会を実施することで、生徒への環境教育を展開しました。また、生成したバイオメタンを聖火として燃焼するための活動、液体肥料で作物栽培を実施することで、生徒の課題研究活動を促進しています。



審査コメント

学校内に生ゴミからバイオメタンと液肥を作る施設を導入するとともに、それを生徒への環境学習に活用した取組であるが、特に中高一貫教育の中で学習から実証実験に至るまで生徒が主体的に取組み、4年間の総合的なプログラムを作り上げたことは高く評価できる。また液肥を様々な作物で実験し、最適な液肥量を明らかにするなどの新たな知見を生んだことも興味深い。さらに地域への情報発信として聖火にこのバイオメタンを使うことを提案するという挑戦は続いているが、是非このバイオメタンが東京オリンピック・パラリンピックの聖火の燃料となることを一緒に願いたくなるような秀逸な取組である。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

この度はジュニア・キッズ部門環境大臣賞金賞という素晴らしい賞をいただくことができ、大変うれしく思っております。今回の受賞の影響で学校内でもこれまで以上に興味を持ってくれる生徒が増え、新しい研究メンバーも加わりました。今回このように高く評価して頂いた理由に、多くの人が私たちが目標としているバイオメタン聖火に期待して下さったことがあると考えております。今回の受賞をゴールとしてしまうのではなく、新たなスタートとして再出発し、バイオメタン聖火を実現させたいと思っております。これからも応援して下さる方々への感謝を忘れず、日々努力していきたいです。



学生部門

環境大臣賞 金賞(学生部門)

津波地域を変える 桜・バラと食物連鎖を用いた低炭素社会の構築

宮城県農業高等学校 科学部復興プロジェクトチーム

〒981-1243 宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地

☎ 022-384-2511 <http://miyanou.myswan.ne.jp/>



津波被害を受けた沿岸部は今も樹木が少なく雑草の繁茂が目立つ状況です。原因の1つは削られた土壌で、作土層の10cm回復には1000年を要すると言われていて、そこで地力のアップに着手し低炭素社会の構築を促進しています。桜とバラを休耕地などに植える活動に加え、サークルリング状花壇にすることで食物連鎖がよく働き人手を要せずとも自然と土壌微生物バイオマスが形成され土が豊かになったため、同様の被災地への波及を願って活動しています。



審査コメント

東日本大震災により学校は津波を受けて全壊したが、この時津波から奇跡的に生き延びた桜があり、これを未来に残すと共にそれを一つの象徴として津波により大被害を受けた地力の回復を大幅に向上させるプロジェクトとして桜とバラの食物連鎖を活用し見事な成果をあげた。これは震災復興として大きな意義があるだけでなく、あらゆる自然再生・土壌再生の新たな知見として大きな貢献である。作土層10cmの回復に1000年は要すると言われていたのに対し、すでに600本の桜、1400本のバラが育ち他の自治体からも多くの相談依頼が来るなど波及効果も大きく極めて高く評価できる。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

環境大臣賞 金賞 学生部門の受賞に当たり、ご支援を賜りました全国の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。東日本大震災という未曾有の大災害から間もなく7年、この教訓を後世に伝え、人口減少地域の復興にどう貢献できるかを農業高校生の立場で問い続けてきました。津波を経験した先輩生徒や地域の方々の想いを代々受け繋ぎ、その想いはやがてボランティアとの協働作業として桜やバラの植栽、土づくり、生業へと広がっています。今回、大変名誉ある賞をいただき、関係者一同喜びを分かち合うと共に誓いを新たにしているところです。産業化もままならない被災地ですが、今後も震災を伝え継ぐ桜で低炭素社会の構築に向け、活動していく覚悟です。

ファイナリスト紹介



市民部門

環境大臣賞 金賞(市民部門)

大阪府ESCO事業による省エネ・省CO₂化の推進

大阪府 住宅まちづくり部 公共建築室 設備課

〒559-8555 大阪府大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)26階
☎ 06-6210-9799 http://www.pref.osaka.lg.jp/koken_setsubi/esco/



ESCO (Energy Service Company) 事業とは、ESCO事業者のノウハウと資金で省エネルギー化を実現し、その効果を保証する事業です。省エネルギー化による光熱水費の削減分で改修工事に係る経費等を償還するため、省エネルギー効果と費用対効果を最大限に引き出すことができます。設備課では、府が所有する建物にESCO事業を効果的に展開するとともに、府内市町村等への普及促進にも努めております。



審査コメント

ESCO事業自体は民間では以前より様々な所ですでに普及してきているが大阪府の取組は地方自治体として極めて先駆的で大きな実績を上げてきている。2001年に全国自治体初の民間資金活用型のESCO事業を実施し、2015年に「新・大阪府ESCOアクションプラン」を策定するとともに府が所有する施設に徹底的にESCO事業を展開。70の施設で光熱水費削減額約74億円、平均省エネ率26.7%を達成させた。地方自治体でここまで徹底した取組は特に都道府県では他に類をみない。またこの活動を大阪府は市町村へも波及させるべく市町村向けのESCO事業を実施。省エネルギーは低炭素化への1丁目1番地とも言えるが地方自治体の素晴らしい省エネルギーの普及モデルの代表といえよう。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

低炭素杯2018において、環境大臣賞金賞市民部門を受賞できたことを大変光栄に思っております。本府では、2001年に全国の自治体で初となる民間資金活用型ESCO事業を実施したのを皮切りに、これまでに府が所有する84施設にESCO事業を導入してきました。また、府内市町村を対象に出前講座を実施するなどESCO事業の普及促進にも努めており、環境性のみならず経済性にも優れたESCO事業を少しでも多くの皆さまに知って頂ければと、低炭素杯に応募させて頂きました。今回の受賞により、ESCO事業の輪が更に広がっていくことを期待しております。今後も引き続き、低炭素社会の実現に向けてESCO事業を推進していきます。



企業部門

環境大臣賞 金賞(企業部門)

「鶏も人も幸せ」持続可能な 低炭素養鶏業PARTII「廃棄物編」

倉持産業株式会社

〒303-0044 茨城県常総市菅生町683-1

☎ 0297-27-1131 <http://www.kuramochisangyo.jp/news01.html>



持続可能な養鶏は、至難の業。中小の養鶏業者は、物価の優等生たまごの価格の安さと、人手不足、莫大な経費のアンバランスに悩んで、次々に廃業しています。当社は養鶏業の抱える悩みに積極的に取り組んできました。情報収集をして戦略的な投資と、計画的な投資回収を繰り返しています。当社のCO₂削減は、電気、燃料、廃棄物の3本柱です。今回は、持続可能となった直営農場の鶏ふん処理と、液卵工場の卵殻処理をご紹介します。



審査コメント

「鶏も人も地球も幸せ」。まさにその三方よしを実現させる先駆的な取組といえる。安全・安心は鶏ふん処理とともに独自の手法で良質の発酵鶏ふん堆肥をつくとともに卵殻も全量リサイクルへの道筋ができた。これらによって効率化による採資性と低炭素化の両方が実現された。また他の中小廃鶏事業とも連携、倉持方式の安全で環境にやさしく採資性の高い養鶏業のあるべき事業モデルを波及できる取組が極めて高く評価できる。養鶏業だけでなくあらゆる日本の農業、酪農を守っていくための示唆に富んだ取組みと言える。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

低炭素杯では昨年「エネルギー削減編」でエコーガニック賞を受賞。本年「廃棄物削減編」で企業部門環境大臣賞金賞を受賞。「鶏と人に優しい」当社の取組が2年連続で受賞した事を大変誇りに思います。ありがとうございました。この受賞は「エコネットいばらき」を始め、ボランティア活動を通して出来た、いばらきのエコの輪の賜物です。今後もヨーロッパから3階建ての最新のウインドレス平飼鶏舎を取入れる等、動物福祉の面からも「鶏の幸せ」を追求します。当社の「人に優しい」持続可能な低炭素養鶏は、まだまだ進化中です。これからも「安心安全美味しいたまご」を供給できるよう取組みます。ありがとうございました。

ファイナリスト紹介



市民部門

文部科学大臣賞(社会活動分野)

ウッドスタート

～誕生祝い品で繋げる地域材活用のネットワーク～

認定NPO法人芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内

☎ 03-5367-9601 <http://goodtoy.org/>



「木」の持っている可能性を最大限に引きだしながら、その力を子どもを中心とした人の育ちに活かす取組を行っています。全国の自治体や企業と連携し、①生まれた赤ちゃんに地産地消の木製玩具を誕生祝い品として贈る事業②子育て環境に地域材をふんだんに取り入れ木質化する事業③木育に関わる人材の育成④木の良さを伝える場の拠点整備などを行っています。それらの活動を通し、「木」を適切に使うことが環境保全に役立っていることも伝えています。



審査コメント

世の中に地域資源活用の取組み、とりわけ地域材を活用していくという取組みは数多くあるが、その中でもそれらを子供の育みに活かし、特に誕生祝い品で全国の自治体・企業につなげていくという活動は、極めて波及力のある優れた事業モデルと言えよう。また保育園や子育て支援施設での内装に地域木材を活用する『空間木質化』、全国各地の良質な木のおもちゃとの出会いの場を提供する『木育キャラバン』、木育を行う『木育インストラクターの養成』、地域の森林資源をふんだんに取り入れた『姉妹おもちゃ美術館』などの6つの事業による立体的な取組みと、それによる相乗効果は秀逸なものである。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

私共の小さな「木を好きな人を育てる」種まきが評価され、今回の受賞に至ったこと大変嬉しく思います。今、その種まきは、全国各地で芽を出し、幹が育ち、葉を茂らし、大きな木となりつつあります。この3月で39の自治体がウッドスタート宣言をしてくださいませ。企業も保育園幼稚園も私たちの活動に参画しています。また地域材を活用した姉妹おもちゃ美術館も全国各地に開館され、少しずつではありますが、ウッドスタートは着実に育っております。この受賞を機に、こうした地域材を活用した取組がさらに広がり、それが森林保全や子育て環境の充実につながり、その結果として低炭素社会の実現に向けての一翼を担うことになることを願っています。



ジュニア・キッズ部門

文部科学大臣賞(学校活動分野) / マクドナルドオーディエンス賞

『食べて守る琵琶湖の環境』地産地消・エシカル消費が地球を救う



草津市立渋川小学校

〒525-0025 滋賀県草津市西渋川二丁目8-55

☎ 077-566-6116 <http://www.shibukawa-p.skf.ed.jp/>

マクドナルドオーディエンス賞

マクドナルド商品券



本校児童は、6年間を通して身近な自然や暮らし、文化とのつながりを学び、毎年、学習成果をまとめた「渋川ESDミュージアム」を校内に開館しています。特に5・6年生は、滋賀の食文化に学ぶことをテーマとし、地産地消の促進やエシカル消費が琵琶湖の環境保全だけでなく地球温暖化の防止にもなることを学びます。また、学校・地域・行政・企業等が協働して支援委員会を組織し、まちぐるみで児童の環境教育を支援してきました。



審査コメント

全国の学校でESDは少しずつ広がりを見せてきているが、その中でも草津市立渋川小学校の取組は生き物学習の成果を『渋谷ESDミュージアム』にまとめたり、生き物紙芝居を制作したりするのに加え、学級内に『滋賀の郷土料理博物館』を開館するなど、郷土料理を通じて琵琶湖の環境や地域活性化について考えるなど大変ユニークなものである。さらにこれらのESDの支援委員会には教員、PTA、自治体、市民団体、行政、大学、企業など多くの機関が参加し地域との連携をプラットフォームにしている点など極めて高く評価できる。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

本校では、学校と地域、行政、研究機関、企業等が連携して、子どもたちの活動を支援し、持続可能なまちづくりの一環としての環境教育を推進してきました。子どもたちは、学習を通してふるさとの自然や文化、さらに自分自身に誇りを深めるとともに、人と人とのつながりの大切さに気づくことができました。この度の受賞は、子どもたちはもちろん、関わってくださった多くの大人にとって大きな自信となりました。本受賞を励みとして、今後も地域に根ざした教育活動を実践していきたいです。ありがとうございました。

ファイナリスト紹介



学生部門

セブン-イレブン記念財団 最優秀地域活性化賞

虹の松原再生保全

～『虹の松原』からの贈り物 松葉の利活用～

佐賀県立唐津南高等学校 松露プロジェクトチーム

〒847-0824 佐賀県唐津市神田字堤2629番地1

☎0955-72-4123 <http://cms.saga-ed.jp/hp/karatsuminamikoukou/>

最優秀地域活性化賞

広報紙
「みどりの風」への
記事掲載

一般財団法人
セブン-イレブン記念財団



燃料事情の変化から松葉掻きの習慣がなくなり富栄養化した松原は危機的状況に陥っています。白砂青松のあるべき姿を取り戻し、集めた松葉の再利用化に取り組んでいます。ペレット化し木質バイオマスとして熱エネルギー生産させる「エネルギー利用」と、マルチや肥料として利用する「マテリアル利用」に取り組み、環境に優しいクリーンエネルギーに取り組み地域に密着した「地域で取り組むべき、地域一体型の活動」を行っています。

※マルチとは、地温保持や除草の目的で土の表面をフィルム等で覆う事の総称。



審査コメント

佐賀県唐津市にある特別名勝「虹の松原」の再生・保全に取り組んでいる活動。松原の美しい景観を取り戻すための富栄養化した松原かきを地元NPOやボランティア、企業、幼稚園、小学校、地元住民と一緒に、この協働により参加者も7000人以上になっており、またそれだけに留まらず回収した松葉を木質バイオマス燃料として熱エネルギー生産させる「エネルギー利用」と、農業で使用するマルチや肥料として利用する「マテリアル利用」に地域一体型の活動を行っている点を評価しました。

—— 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー 小野 弘人

受賞者コメント

虹の松原から無限に贈られる松葉を有効利用することが、未来の虹の松原を守ることに繋がると思い活動してきました。私たちの活動がこのような形で認められたことを大変うれしく思っております。今大会において、様々な活動に取り組んでいらっしゃる他団体の方々との交流ができ、刺激を受け大変有意義な体験となりました。このような機会を頂き、大会関係者の方々、そしてご協力いただいている地元の方々に本当に感謝しております。この経験を活かし今後はさらに多くの方に利用していただけるように研究を重ね、多くの人で賑わう元気な虹の松原を取り戻し次世代に繋ぐことが私たちの使命であると考えます。本当にありがとうございました。



学生部門

LIXIL最優秀エコライフ活動賞 / マクドナルドオーディエンス賞

二酸化炭素がエネルギー源となる発電装置の開発

米子工業高等専門学校 物質工学科谷藤研究室
〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448
☎ 0859-24-5158 <http://www.yonago-k.ac.jp/doc/club/65>

最優秀エコライフ活動賞

LIXIL HPでの
紹介と広報支援



マクドナルドオーディエンス賞

マクドナルド商品券



本取り組みは、2014年低炭素杯で環境大臣賞金賞を受賞したエコな発電装置として期待されている、燃料電池の電解質膜に卵殻膜を適用させてその装置で発電が起こることを証明したものを大幅に発展させた内容となっています。今回は、この発電装置の改良によって、二酸化炭素が水に溶けた炭酸水を燃料として発電するタイプの電池を開発しました。二酸化炭素を作らない、減らす技術ではなく二酸化炭素を直接用いる新しい技術開発を提案しています。



審査コメント

継続した研究と自由な発想力、挑戦する姿勢を高く評価しました。米子工業高等専門学校は、卵殻膜の持つ可能性を常に追求され、低炭素杯2015、2016にもファイナリストとして参加し、金賞を獲得されてきた実力派です。卵殻膜による発電をさらに進化させ、炭酸水を燃料にするというアイデアは画期的です。卵の殻の薄い膜を扱う丁寧さ、炭酸水など様々な液体を燃料として試していく柔軟さ、その自由な発想が斬新なアイデアを生み、イノベーションを起こしていくと考えます。これからの脱炭素社会の実現に向け、若い世代の柔らかい感性と研究の成果に期待し、LIXIL賞を決定しました。

—— 株式会社LIXIL Public Affairs部門 広報部 コーポレートリスポンスビリティ推進グループ グループリーダー 伊藤 弓子

受賞者コメント

2015年にも環境大臣賞金賞を頂いたテーマの発展的内容を評価されて、今回の低炭素杯においては二つの賞を頂くことができました。我々はこれまで一貫して食品廃棄物の中でも知られている割に再利用ができていない卵殻膜を活用するための研究を進めてきました。今回の発表では、前回の発表との相違点を十分に伝えることができたと自信が有りませんが、今後も活動を継続してより良い発電装置の開発を行って、実用化に近づけていきたいと考えています。今年は鳥取県内の選考会が初めて行われ、県の代表として臨んだ大会でしたので、今回の入賞を地元を持ち帰り、今後も環境改善に向けた活動を継続していくつもりです。

ファイナリスト紹介



学生部門

ユニ・チャーム 最優秀エコチャーム賞

SAGA藻(そう)わたしたちの未来

佐賀県立佐賀商業高等学校 さが学美舎

〒840-0804 佐賀県佐賀市神野東4丁目12番40号

☎ 0952-30-8571 <http://saga.manabiya.co.jp/>

最優秀エコチャーム賞

ユニ・チャームHP内の
活動紹介



2014年度より佐賀市バイオマス産業都市推進課と共同で、藻類バイオマスの研究・PR活動を行っています。「今あるものに付加価値を」を合言葉に、産業の入口を行政が整備、出口である販売や広報活動を高校生が担うという仕組みを考え実行しています。また、佐賀市環境部とタイアップし、学校単位でのごみ減量化と、子供たちへの環境啓発教室を行うことで環境マインドを持った人を増やすという啓発活動にも取り組んでいます。



審査コメント

佐賀県立佐賀商業高等学校さが学美舎へエコチャーム賞を授与した一番の大きなポイントは、藻類がもたらす無限の可能性を「今あるものに付加価値を」という合言葉のもとに、未来を切り開く為に自ら考え行動する力です。産官学(佐賀市環境部や地元アルピータ社)の連携により、自分達が出来る事を、地域を巻き込んで実行する力に対して評価を致しました。また発表においても学生らしくとてもチャームングでした。

—— ユニ・チャーム株式会社 CSR本部 環境推進グループ マネージャー 石村 令子

受賞者コメント

この度は、このような栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。食物連鎖の最下層、ちっぽけな藻から、このような栄誉ある賞を受賞するまで世界が広がるとは、研究当初は思ってもみませんでした。役場の方々の熱い想いと自分たちの未来は自分たちで守るという一心で「藻カツ」をやってきて本当によかったと思います。参加された方々がそれぞれの立場で持続可能な社会づくりという一つの目標に向かって、様々なアプローチをされていて、すごく素敵だなと思いました。多くの方と共有したい大会でした。貴大会事務局をはじめ、企業・佐賀市の方々の応援とご協力がなければこのような場に立つことはなかったと思います。有難うございました。



ジュニア・キッズ部門

ニトリ 最優秀 夢・未来賞

エコマート ～ぼくらの会社で未来を守ろう～

橋本市立あやの台小学校 エコマート

〒648-0019 和歌山県橋本市あやの台2-17

☎ 0736-37-4001 <http://youtu.be/ngdoo2HvwuY>

最優秀 夢・未来賞

ニトリHP内での
活動紹介及び
記念品の贈呈



子どもたちが会社を設立し、企画した商品を販売し、得た収益を国際社会貢献のために寄付する活動を行っています。昨年度は無農薬野菜を育てる会社、リサイクル手芸品を作る会社、壊れた木工品をリメイクする会社などが作られ、利益をフィリピンとインドのストリートチルドレン救済のために使いました。今年度は協力の輪を広げようと、アメリカ・ローナートパーク市や、関心を持ってくれた学校の子も同士で交流を始めています。



審査コメント

ニトリ最優秀夢・未来賞は、環境問題への取組みを通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来を、みんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。「エコマート～ぼくらの会社で未来を守ろう～」の取組みは、世界や地球の未来を変えるという活動理念の元、子供たちが会社を設立し、企画した商品を販売し、得た収入を国際社会貢献のために寄付するという幅広い活動を行っており、我が社の取組みにも通じるものがあり、より良い未来へつながっていく可能性を大きく感じさせる素晴らしい内容であったと思います。この取組みが、和歌山から全国へ、そして世界へより発展的に継続していくことを期待しております。

—— 株式会社ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

受賞者コメント

子ども達と「何を伝えるべきか」を発表前夜にもう一度話し合い、「まとまった説明よりも、自分たちの思いをぶつけたい」という結論にいたり、発表内容を変更しました。環境問題を真剣に考えたことで見つけた「幸せな生き方」についての提言。「夢・未来賞」をいただいたとき、自分たちの活動と思いを理解してもらえたことで、子ども達は大きな自信を得られました。和歌山にもどり報告をすると、みんな満面の笑顔で喜び合っていました。この笑顔の輪に「夢・未来」を感じました。これから子どもたちと共に、低炭素社会、誰もが幸せを実感できる共生／協生社会を目指して、エコマート活動をがんばっていきます。本当にありがとうございました！

ファイナリスト紹介



学生部門

ウジエスーパー 最優秀エコガニック賞

地域資源で特産品を救え！ ～農都篠山から循環型農業の発信～

兵庫県立篠山東雲高等学校

〒669-2513 兵庫県篠山市福住1260

☎079-557-0039 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~sasashino-hs/>

最優秀エコガニック賞

「無限のぼり米 みやこがねもち米」

一俵



兵庫県篠山市は、地域特産品の「丹波黒大豆」が全国的に有名です。しかし、長年の連作や化学肥料中心の施肥によって病害が発生していました。そこで、本取組はその病害に拮抗性のある菌を地域資源である下水汚泥や廃菌床、竹チップと混和してペレット化し、病害防除や化学肥料削減を目指しました。下水汚泥は産業廃棄物のため、処分に費用とエネルギーの消費があり、竹は放置竹林拡大のため社会問題になっています。その解消も目指します。



審査コメント

本年度のウジエスーパー最優秀エコガニック賞は兵庫県立篠山東雲高校様へお贈りさせていただきます。このお取組みは放置竹林の竹を主原料にした竹チップと産廃の下水汚泥を混和してペレット化し循環型農業にチャレンジ、特に地域特産品である丹波黒豆の生産性向上に大きく貢献されたものです。エコとオーガニックの同時実現で地球と地域社会に貢献している活動や団体に贈る賞として位置づけているエコガニック賞にまさに相応しく贈呈する私達も大きな喜びで一杯です。環境問題、循環型農業、地域課題等々……、それを一石二鳥・三鳥で一気通貫で同時解決する想いや視点、実現への執着が肝です。今後も継続され、より大きな影響力を期待します。

—— 株式会社ウジエスーパー 常務取締役 吉田 芳弘

受賞者コメント

私たちの活動は、地域特産品の丹波黒大豆を病気から守るために、地域資源である竹や汚泥に拮抗菌を加え、ペレット化し実際に農家さんに使用していただき、その効果を検証するというものでした。今回、エコガニック賞という活動にぴったりの賞をいただき、評価していただけたことは、今後の活動の励みになると強く実感しています。安心・安全だけでなく、環境にも配慮した農法がもっと広がっていくように、この活動をしっかりと続けていきたいと思ひます。また、参加された多くの団体の取り組みもとても素晴らしかったので、活動に取り入れられるものは取り入れていきたいと思ひます。



学生部門

損保ジャパン日本興亜環境財団 最優秀わくわく未来賞

地域とつくる 環境にやさしい牛肉生産

神奈川県立相原高等学校 畜産部相原牛プロジェクト

〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本2-1-58

☎ 042-772-0331 <http://www.aihara-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

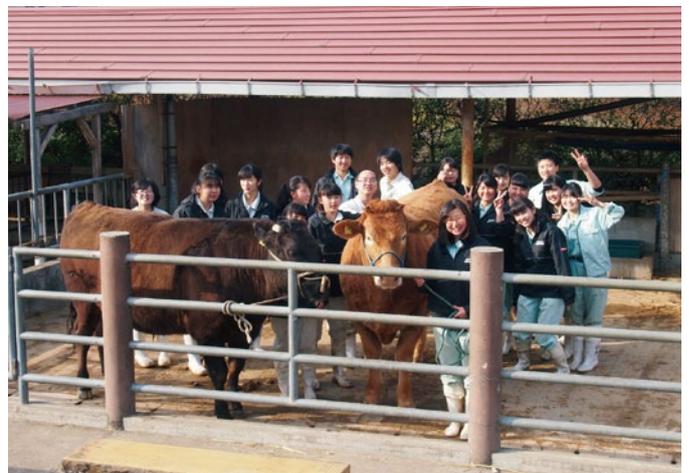
最優秀わくわく未来賞

財団主催の
環境講座イベント
ご招待

損保ジャパン日本興亜環境財団



牛肉の生産に使用するエサの多くは輸入に頼っています。そんな中で、もっと地域の廃棄物を利用して安くおいしい環境に優しい牛肉をつくらうと私たちは考えました。学校周辺の食品工場などに協力していただき、食品廃棄物や農場副産物を利用した黒毛和牛を育て出荷したところ、輸入飼料で育てた牛に劣らない肉質の牛肉を生産することができました。現在では、さらなる肉質向上のために新たな取組を行っています。



審査コメント

損保ジャパン日本興亜環境財団では「わくわく未来賞」という名称で、未来の環境保全に繋がる取り組みを応援しています。相原高等学校畜産部の「地域とつくる環境にやさしい牛肉生産」は、近隣の食品工場や農家と連携して集めた食品廃棄物や農業副産物を有効利用し、輸入飼料で育てた牛と変わらないおいしい肉牛の育成を目指すもの。社会的に大きな課題となっているフードロスや、温室効果ガス削減の課題であるフードマイレージ削減に対する一つの解決策を見事に提示しています。廃棄物を活用した飼料で、おいしく環境にもやさしい牛肉生産に取り組む相原高校畜産部の皆さんの今後の活動に本当に「わくわく」します。

—— 公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 事務局長 佐藤 孝治

受賞者コメント

今回は、このような賞と貴重な機会をいただきありがとうございます。私達は、捨てられてしまうものを、「もったいない」と感じて少しでも変えていこう!と思い活動に取り組んできました。今回の低炭素杯で先輩たちの代から引き継いでやってきた研究を発表し、多くの方々に広める機会になったことをうれしく思います。今後、自分たちの取り組みが畜産界に広がり、低炭素な畜産づくりを作っていけたらいいです。私達は、今後廃棄物利用の研究をさらに進め、人々の命をつなぐ食の分野に広めていけるような技術の確立を目指して頑張ります!

ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

タカラトミー 最優秀次世代賞

自然・人・物との関わりを生かした 持続発展教育 (ESD) の推進

越谷市立大袋東小学校

〒343-0032 埼玉県越谷市袋山1750番地

☎ 048-975-4918 http://school.city.koshigaya.saitama.jp/obukuroh_e/

最優秀次世代賞

タカラトミーHP
特設ページ内での紹介と
「最優秀次世代賞」
受賞証贈呈

TAKARA
TOMY
GROUP



「自然・人・物にやさしい東っ子の育成」を基本目標に掲げ、20数年以上にわたり環境教育に力を入れています。具体的な活動としては、①「総合的な学習の時間」「生活科」でのテーマ学習②環境の祭典「エコフェスティバル」、こどもエコクラブ活動③栽培活動、省エネ活動、ピオトープ保全活動の3つです。また、従来の環境教育に加え、ESDの理念を取り入れ、他教科でも関連した内容を系統づけて指導しています。



審査コメント

この賞の対象は、同校すべての生徒そして先生たちです。継続するために、ESDの理念を取入れ体系的な指導をされており、さまざまな「つながり」を大切にした活動をされています。下の学年に引き継がれる学年別のカリキュラム、家庭とつながる年2回の取組み、そして社会の人々の話を聞くことができるエコフェスティバル。そこでも、6年生が下級生を案内することで、学校文化の継承につながっています。そして、低炭素杯のステージでは、2048年の大袋東小の生徒が環境を知るためにタイムスリップして現在の生徒と環境を話し合うという時間を超えた「つながり」を魅せてくれました。まさに最優秀次世代賞にふさわしい活動です。

—— 株式会社タカラトミー 関係会社管理部 社会活動推進課 課長 高林 慎亨

受賞者コメント

本校の、長年の環境教育の継続的な取組、学校全体での実践、児童中心の活動を高く評価していただきありがとうございました。本校の取組が「次世代を笑顔にする活動」として評価され「最優秀次世代賞」をいただいたことは、これからの教育活動を進めるにあたっての、力強い励ましとなりました。本校は、「自然・人・物にやさしい東っ子の育成」を基本目標に掲げ、その特長である環境教育の取組により、環境保全意識の育成に加えて、問題解決を図る資質・能力を育ててまいりました。更に、ESDの視点を取り入れた、指導法の研究を進めています。視野が広く、高い志を持ち、新たな一歩を踏み出せる、大袋東小の子ども達を育ててまいります。



企業部門

オルタナ 最優秀ストーリー賞

砂地にみどりを ~ 35年間の森づくり ~

花王株式会社 鹿島工場

〒314-0103 茨城県神栖市東深芝20番地

☎ 0299-93-8311 <http://www.kao.com/jp/>

最優秀ストーリー賞

雑誌
「オルタナ」への
記事掲載と冊子提供
alterna



鹿島砂丘と呼ばれる不毛の土地に工業地帯ができ、当工場も砂地の場所で工場建設が始まりました。当工場では1980年の建設当時から工場の緑化方針を掲げ、樹木林の成長を考慮し、将来像を描いた緑化計画を推進してきました。植樹にあたっては、在籍社員全員が「自分の木」を植える記念植樹を行い、「社員の森」として育成し、地域在来種中心の生物多様性に富んだ「地域の森」を復活させ、現在でもその活動を継続しています。



審査コメント

英国企業のCSR(企業の社会的責任/社会対応力)の嚆矢として知られるキャドバリー社は19世紀に、緑豊かな工場「ファクトリー・イン・ザ・ガーデン」をバーミンガム郊外に建てました。花王の鹿島工場が、砂漠のような海岸の地に緑あふれる森をつくったのを見て、工場が周囲の環境に配慮して緑化を進めることはCSRの見地からも、素晴らしいことだと感じました。わずか20年間でこれほど森が育つことを2枚の写真で見比べ、驚かされました。森林によるCO2の吸収だけでなく、生物多様性の取り組みや、植樹を通じて社員の士気を高める仕組みも高い評価につながりました。

—— 株式会社オルタナ 代表取締役/編集長 森 摂

受賞者コメント

この度は「オルタナ最優秀ストーリー賞」をいただき、有り難うございました。今回わたしたちは、工場建設に携わった先人たちの夢と工夫、努力により、立派に育った「社員の森」を紹介させていただきました。これまでの35年間における「森の成長ストーリー」と、森が見守ってきた「工場や従業員の成長ストーリー」を思い浮かべると、まさにふさわしい賞をいただけて感謝しております。また今回、全国様々な分野、地域で活動される皆さまの取組みを拝聴し、その活動内容や活動範囲の幅広さに感銘を受けました。特に学生の皆さまの活動は私たち企業をも超えるものであり、私たちも負けずに、より一層社会に貢献できるよう励んでまいります。

ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

気象キャスターネットワーク 最優秀地域・学校エコ活動賞

SDGsの推進

大田区立大森第六中学校

〒145-0063 東京都大田区南千束1-33-1

☎ 03-3726-7155 <http://oomoridai6-js.ota-school.ed.jp/>

最優秀地域・学校エコ活動賞

気象キャスターによる
出前講座の実施



本校はユネスコスクールのパイロット校として、国連持続可能な開発目標 (SDGs) 達成を推し進めるための活動を行い、特に気候変動について取り組んでいます。全教科で課題解決するために環境を整え、各クラスにホワイトボード10枚、タイマー、環境NAVI、CO₂排出量計測器、グリーンカーテンを設置し、ホテル復活プロジェクトとしてホテルの自生、洗足池環境調査、水質浄化活動、駅前花壇整備を意欲的に実施しています。



審査コメント

低炭素杯に応募された学校や団体は、低炭素社会に向けた身近な取り組みをかなり実践しており、どの学校や団体の皆さんも素晴らしいと思っています。ただ、学校での実践となると受動的になりがちで、何のために活動しているのかだんだん見えにくくなってしまふことがあります。「Think globally, Act locally」といわれるように、地球規模で考えて、地域で行動する視点が重要で、大森第六中学校では「SDGs(国連持続可能な開発目標)の推進」という広い視野で物事を考えながら、「ホテル復活プロジェクト」などの身近な活動を行っている点を評価しました。また、観測や調査を通じた科学的な視点のほか、「地域は屋根のない学校」というキーワードで積極的に地域や大学と連携している点なども大変評価しています。生徒が主体的になって国内外へ発信し、コミュニケーションを図っていくことで、エコ活動の輪が広がっていくことを期待しています。

—— NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表/事務局長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は低炭素杯ファイナリストに選出させていただき、誠にありがとうございました。今までの活動について評価いただいたことに、保護者、地域の方々には喜んでいただき、生徒はより一層努力していく活力になりました。本校はユネスコスクールでSDGs達成のための取組を行っています。環境教育はその中でも大きな柱となっていて、近隣の清掃活動から、地球的規模の課題である気候変動にまで、「自分たちができることから始めよう」を合言葉に活動しています。10年後20年後その先も持続可能な地球でありたいです。今回いただいた「最優秀賞地域・学校エコ活動賞」は私共にとって本当にありがたい賞でした。



学生部門

アンバサダー特別賞

バークを中心とした循環型農業の展開 校内から地域へ IV

大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜

〒879-4403 大分県玖珠郡玖珠町帆足160

☎0973-72-1148 <http://kou.oita-ed.jp/kusumiyama>

アンバサダー特別賞

アンバサダー
関連
グッズ



この地域は、日本有数のスギの林業地として知られています。伐採された木材は樹皮(バーク)を剥いで製材され、そのバークは、この地域だけで毎年18万㎡を超え産業廃棄物として焼却されてきました。しかし、平成14年からのダイオキシン規制により焼却できなくなり、それに伴い農業用資材として使われるようになりましたが、バークに大きな欠点が発見され利用する農家が激減したことからバークの有効利用を産学官の体制で考えてきました。



審査コメント

どのみなさんも素敵な発表をいただき、とてもエモーションいたしました! 「Nai Nai Nai Nai Nai Nai Nai もったいないよ!」そうもったいない! んです! 焼却処分されてきたもったいない“バーク(樹皮)”をバークマットとして農業用資材に活用するだけにとどまらず、そのバークマットでスイートデリシャスなトマトの栽培をしてしまうなんてサプライズです! 「もったいないと思う気持ち(それは)ムダにしない 心がけ!」そんなステューデントの想いがパワーとなり、地域を巻き込み、みんなで協力していく活動にハートがビーターンしました! コングラチュレーション! ※曲名「MOTTAINAI ~もったいない~」より一部引用

—— 低炭素杯2018アンバサダー ルー大柴

受賞者コメント

バーク(樹皮)の有効利用について研究をはじめて5年が経過しようとしています。この間、低炭素杯ファイナリストとして4回出場させて頂きました。出場する度に温かい励ましの言葉を頂き、低炭素杯が私たちの取り組みを支えてくれたと言っても過言ではありません。今年度は、産学官の連携体制も整い本格的に動き始めました。今回の受賞を励みとして、さらに、この地域のために活動して行きたいと思っています。これからもよろしくお祈いします。表彰式では、ルー大柴さんと、色々な会話やツーショットができて本当に楽しかったです。ありがとうございました。

ファイナリスト紹介



企業部門

審査委員特別賞

節電ポスター等の無料提供で、全国に「エコの輪」を広げよう!

富士ゼロックス福島株式会社 無料オリジナルツール事務局

〒963-8004 福島県郡山市中町5-1 日本生命郡山中町ビル3F

☎ 024-927-1011 http://www.fujixerox.co.jp/fkx/support/original_tools/index.html

「節電」、「節水」、「ごみ分別」、「用紙削減」、「エコドライブ」といったエコ活動呼びかけるポスターを無料提供しています。さらに、間接的にエコにつながる「ノー残業デー推進」、「5S活動」といったポスターを加え、現在320種類のポスター等をホームページで公開しています。33都道府県でご紹介・ご提供活動を進めており、ここ1年間でのダウンロード数は311,893件となりました。



審査コメント

「節電」「節水」「ごみ分別」「用紙削減」「エコドライブ」などエコ活動呼びかけるポスターを作成し社員への啓発活動に活用し、社内でのCO₂削減に大きく貢献したのみならず、それを取引のある企業に無料提供、さらにはホームページにポスターのデータを公開して自由にダウンロードできるようにした。すでに全国から30万ダウンロードがあり、それらのポスターを見ている方々の総数はゆうに100万以上にのぼると推測できる。シンプルではあるが低炭素化へ向けての普及活動としては極めて大きな効果をあげたものとし高く評価できるものである。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

今回、ファイナリストに選ばれたことだけでも大変光栄に感じていました。しかも、このような賞までいただくことができ、メンバー一同とても嬉しく思います。ありがとうございました。私たちの活動を『さらなる発展が期待される優れた活動』とご評価いただいたことにより、モチベーションがさらにアップしたことは言うまでもありません。また、低炭素杯2018に参加して強く感じたのは、小中高の生徒の皆さんによる活動内容がどれも大変素晴らしいということです。皆さんの真剣で前向きな取り組みから大いに刺激を受けました。生徒の皆さんを見習い、私たちもさらに高みを目指して活動を進め、低炭素社会の実現につなげていきたいと思えます。



ジュニア・キッズ部門

優秀賞

地域の良いところを調べて、みがいて、活かす!

太子町立中学校 社会科学部

〒583-0991 大阪府南河内郡太子町春日1479

☎ 0721-98-0043 <http://kir050674.kir.jp/taishi-tyannneru.html>

科学分野の活動では太子町の豊かな自然に目を向け、それに密着し、ホタルやカワバタモロコなどそこに生息している生物を対象に保全研究活動を行っています。また、社会分野では、地元の良いところを自ら取材し、記事を書き、それを紹介する手作りの情報誌「太子チャンネル」を発行しています。太子チャンネルは今では12号あり、毎号 800部ほど発行し温泉施設やコンビニ、役所等地域の様々な場所に配布し、親しまれています。



学生部門

優秀賞

カーボン・オフセットでCOOL CHOICE! 意識変えテイ炭素

愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company部

〒455-0861 愛知県名古屋市港区大西二丁目99番地

☎ 052-301-1973 www.nanyo-h.aichi-c.ed.jp/

地域貢献を目的として活動してきたNanyoCompany部は、地域貢献の一環として、環境問題の解決を目指すことにしました。地域のイベントにおいて販売している商品について、カーボン・オフセット制度を活用することで温室効果ガス排出量を抑えた商品の販売を行い、この制度やCOOL CHOICEの周知を図ることで、温室効果ガス排出量の少ない商品を購入者に選んでもらえるような環境意識向上の取組を行いました。



ファイナリスト紹介



市民部門

優秀賞

半径2km単位での食革命ローカルフードサイクリング(LFC)

NPO法人循環生活研究所

〒811-0201 福岡県福岡市東区三苫4-4-27

☎ 092-405-5217 <http://www.jun-namaken.com/>

資源である生ごみが焼却処分され、地域内での人と人、人と食の関係が希薄になっています。私たちは、地域単位での、コンポストを起点とした「ローカル・フード・サイクリング(LFC)システム」(生ごみを野菜に変えるサービス)をつくり環境と福祉、地域の健康をつなげます。住民による住民(受益者)のための持続可能な共助社会づくりを目指しています。



市民部門

優秀賞

エネルギー自律型まちづくりの推進について

仙台市

〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町3-7-1

☎ 022-214-8003 <http://www.city.sendai.jp/kankyo/shise/gaiyo/soshiki/sesakukyoku/link/suishin/index.html>

東日本大震災により浮き彫りになった大規模・集中型のエネルギーシステムが抱える災害時の脆弱性や再生可能エネルギーの導入に係る系統制約などの課題に対応するため、地域住民や民間事業者との協働により、災害に強くエネルギー効率の高い分散型エネルギーの創出や環境負荷の小さい次世代エネルギーに関する先端的な研究開発を促進するなど、エネルギー自律型のまちづくりを推進しています。



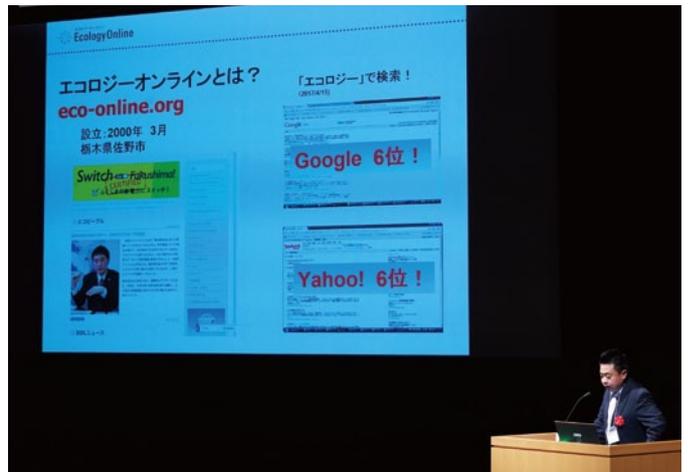
Green Power Caravan

NPO法人エコロジーオンライン

〒327-0832 栃木県佐野市植上町1331-6

☎ 0283-23-9758 <https://www.eco-online.org/solarpowertruck/>

温暖化対策にも重要な自然エネルギーの大切さを多くの人々に伝えるよう、キャラクターの開発や音楽を通じた自然エネルギーの普及活動を行っています。東日本大震災以降は、被災時の小さな自然エネルギー利用と持続可能な教育の重要性を感じ、太陽光パネルと小さなバッテリーのナノ発電所を開発し、熊本支援ではソーラーパワートラックの派遣を通して小さな自然エネルギー機器を寄付する活動を実施しました。



多摩区商店街エコポイントカード 地域ぐるみでエコを推進

区役所通り登栄会商店街振興組合、登戸東通り商店会、多摩区まちづくり協議会 多摩エコスタイルプロジェクト

〒214-0013 神奈川県川崎市多摩区登戸新町182-2-401

☎ 090-7013-2417 <http://www.tamaku-machikyo.com/blog-ecostyle/>

多摩エコスタイルプロジェクトは多摩区の2つの地元商店街と共同で、区民とともに低炭素化を促進する「エコポイントカード」の取り組みを実施しています。買い物客が商店街参加店舗の定めた「店のエコ」に協力すると、環境負荷の低減となり、温暖化防止を促進する仕組み。また、商店街の空き地を活用して開催してきたエコを発信する「空き地イベント」は、「登戸まちなか遊縁地」という区民の交流の場作りにつながっています。



ファイナリスト紹介



市民部門

優秀賞

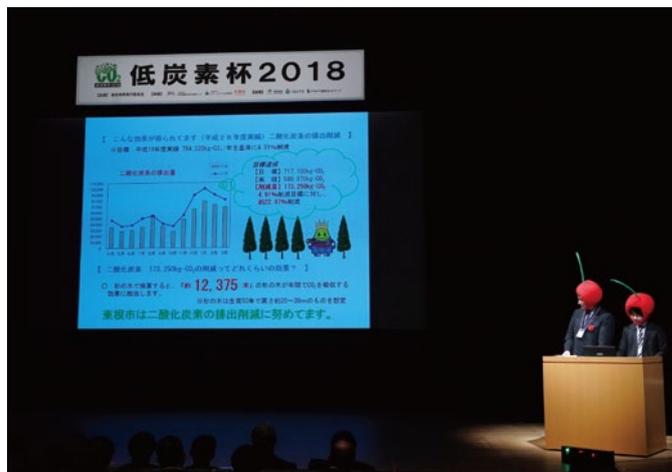
東根市環境ISOの取組

東根市

〒999-3795 山形県東根市中央一丁目1番1号

☎ 0237-42-1111 <https://www.city.higashine.yamagata.jp/>

環境保全は世界共通の問題であり、それぞれの国での対応や公平性、透明性が求められています。そこで、国際標準化機構(ISO)がISO 14001を発行し、環境改善のための管理と、改善の手順・手法を、標準化・体系化したものが環境マネジメントシステムです。その中において東根市は、平成13年10月に環境ISO14001認証を取得し、県内自治体で唯一継続して認証を受け、環境問題に積極的に取り組んでいます。



市民部門

優秀賞

静岡市初! 食器のリサイクル活動!

エコなうつわ屋さん

〒420-0949 静岡県静岡市葵区与一5丁目21-28-3

☎ 054-272-8839 <http://eco50.eshizuoka.jp/>

食器の3R活動です。①不用食器を回収し(リデュース)、②使えるものは中古食器として再利用(リユース)しますが、③再利用できなかった食器は岐阜県の粉碎工場に送ってリサイクル(再生陶土→再生食器)してもらいます。今までに約7トンを回収して、約9,000個をリユースしました。また、再生陶土を使ったエコ陶芸や中古食器に穴をあけて多肉植物を寄せ植えをするなど、環境教育にも活かせる多彩な活動です。





企業部門

優秀賞

自然環境に配慮した「新しい建設工事モデル」の取り組み

株式会社山全

〒778-5251 徳島県三好市池田町白地井ノ久保929-2

☎ 0883-74-1670 <http://www.our-yamazen.co.jp>

弊社では建設工事を受注した際に、その工事で使用する重機から排出されるCO₂を見える化し、各現場においてCO₂削減計画を検討し、削減努力を実践しています。主な削減努力として、ハイブリット重機の活用、間伐材を使用した現場ハウスや工事看板の設置などを行い、削減しきれなかったCO₂を各々の現場に近い地域の森林においてカーボン・オフセットを実施しています。現場毎に実践しているのは弊社ならではの取り組みです。



企業部門

優秀賞

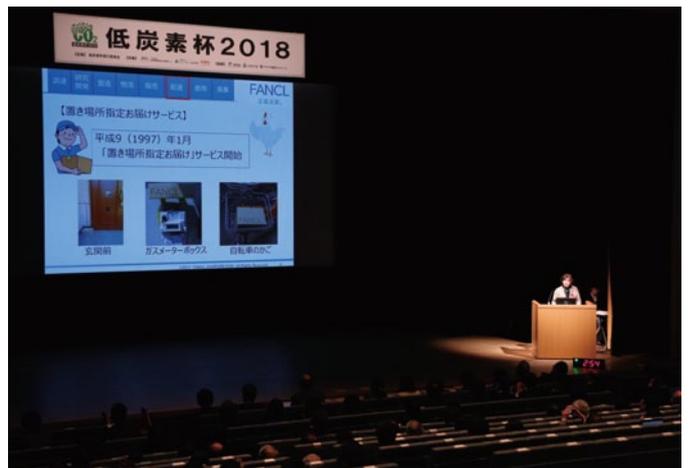
「置き場所指定お届け」サービス

株式会社ファンケル

〒231-8528 神奈川県横浜市中区山下町89-1 株式会社ファンケル CSR推進室

☎ 045-226-1943 <http://www.fancl.co.jp/info/okibasho/index.html>

「置き場所指定お届け」は、不在、在宅に拘わらず、お客様が指定した場所へ商品をお届けする、受領印がいらぬ配送サービスです。事前に「玄関前」「ガスメーターボックス」「自転車のカゴ」など9か所からお届け場所を選んでいただき、指定された場所に配送会社が商品をお届けし、配送完了の旨を記載した用紙をポストに入れてお知らせしています。2017年8月時点で配送件数の38.7%がこのサービスを利用しています。



ファイナリスト紹介



企業部門

優秀賞

落差が小さい農業用用水路等での小水力発電装置開発の実証試験

株式会社技術開発コンサルタント

〒810-0036 福岡県福岡市博多区上呉服町12-8

☎ 092-271-2518 <http://www.gijkc.jp/>

本取組は、水の「流れ」のエネルギーを利用した小水力発電装置の開発で、福岡工業大学工学部阿比留教授と共に行いました。通常の水力発電に必要な「落差（位置エネルギー）」がなくても、「流れ」による「運動エネルギー」を直接利用することで発電します。このことにより、「落差」が少ない低平地の水路でも、水量と流れがあれば、小水力発電が可能となり、これまで不向きとされていた場所での発電が可能となります。



企業部門

優秀賞

電気のいらない陶器の加湿器

日産陶業株式会社

〒529-1811 滋賀県甲賀市信楽町西349-11

☎ 0748-82-1128 <http://www.nissantougyo.co.jp/>

電気を使わずCO₂を発生させない陶器製加湿器を製造しています。従来の電気を使う加湿器には霧により器具の周辺が濡れるという欠点があり、不織布を用いた加湿器には製品寿命が短いという問題がありました。この陶器製加湿器は、滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場が開発した水を吸い上げる能力がきわめて高い多孔質陶器を蒸発部に用いて蒸散させることによって、電気を使わずにこれまでの加湿器の問題を解消しています。



ファイナリストの声

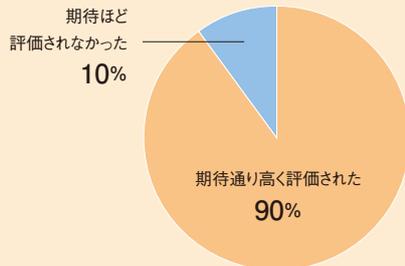
アンケート調査概要

対象者：ファイナリスト30団体

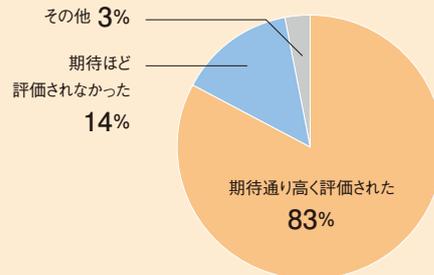
回答数：29団体

内容：応募から、「低炭素杯2018」当日のプレゼン発表までの関わりの中で、各問に対してご回答いただきました。（一部抜粋）

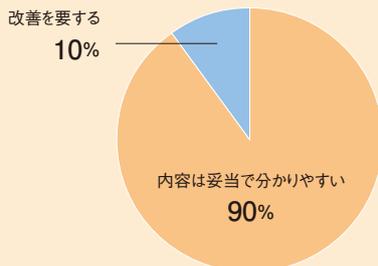
Q. 貴団体がファイナリストに選ばれたことは内部でどのように評価されましたか



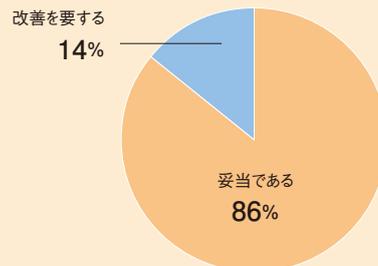
Q. 貴団体がファイナリストに選ばれたことは周囲でどのように評価されましたか



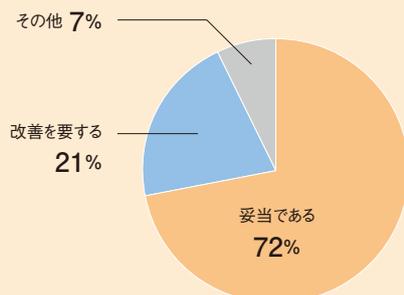
Q. 低炭素杯当日までの提出資料、マニュアル等の内容の分かりやすさについて



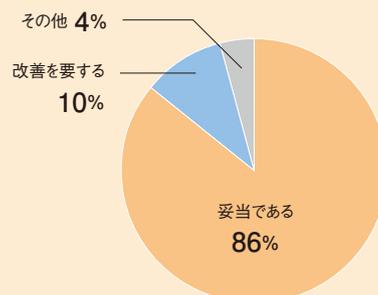
Q. プレゼン(発表)の演出ルールについて(時間、音楽、会場の制約など)



Q. 低炭素杯の開催曜日(平日)について



Q. プログラム構成について



Q. 今回の低炭素杯の出場は、貴団体の今後役に立つと思われますか

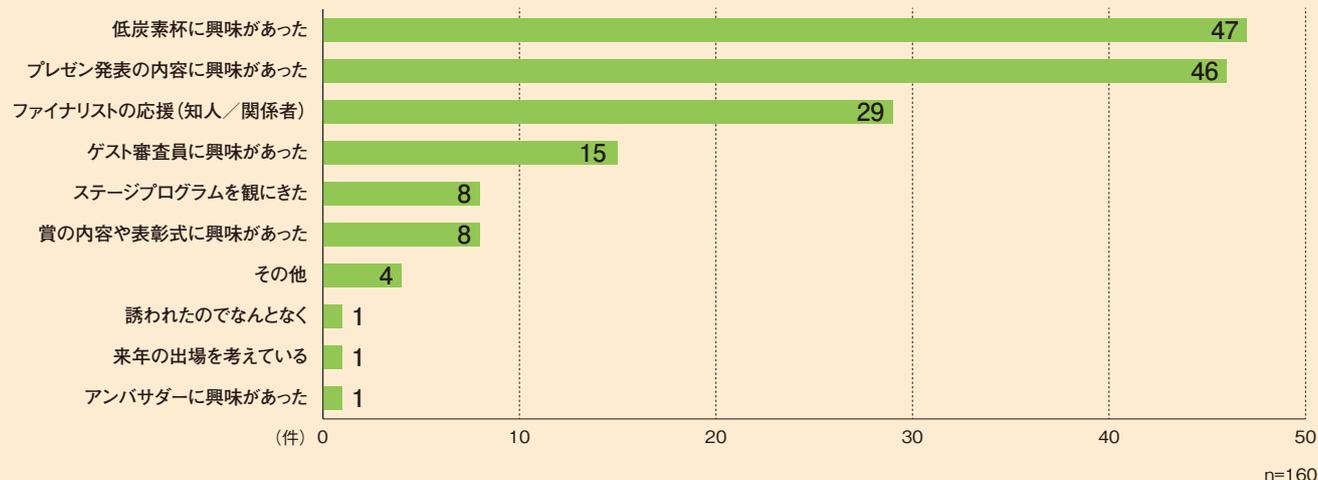


ファイナリストの皆さん
ご協力ありがとうございました!



来場者の声

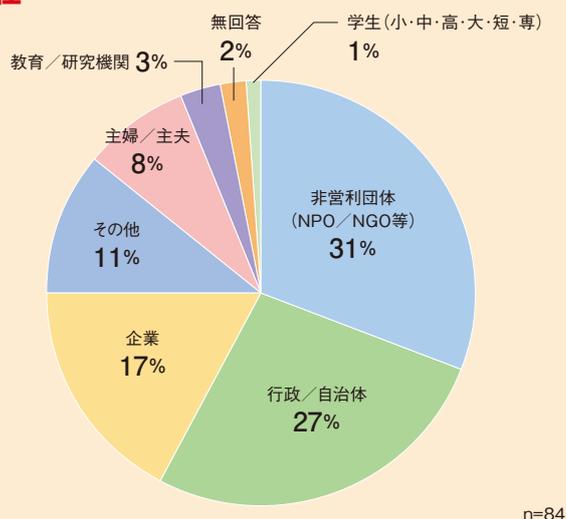
来場目的(複数回答)



年代



属性



感想

- ・初めてでとても勉強になりました。主婦として今までもエコ活動はしていましたが、より一層力を入れて努めていきます。ありがとうございました。
- ・発表者さんの活動内容は年々進化していて毎年改めて目からウロコの情報を頂き、感動します。運営、開催、ありがとうございました!
- ・すべての団体、企業が、自分たちだけ、今だけでなく、社会全体の未来を見据えた活動をしていることに感心しました。発表者たちの活動が世に広がれば、2050年にGHG80%削減は可能だと強く感じました。あとはこの活動をもっと他の人たちに知ってもらえるようにすることが課題ですね。
- ・プレゼンの数が多い様に感じました。長時間になると観る方も集中しきれなくなります。
- ・ステージプログラムの話し合いは良かった。この低炭素杯の主旨や目的、これからのことなどがなんとなく理解でき、今後の活動も期待しています。
- ・全国でこのような多様な取組みが行われていることを、今回初めて知った、ぜひ今後も続けて欲しい。
- ・各部門毎に工夫を凝らした取組みとプレゼンテクニックで、ゲスト審査員として緊張感を持って参加出来ました。高校生のレベルの高さは感心しきりです。

ゲスト審査員の声

ゲスト審査員とは？

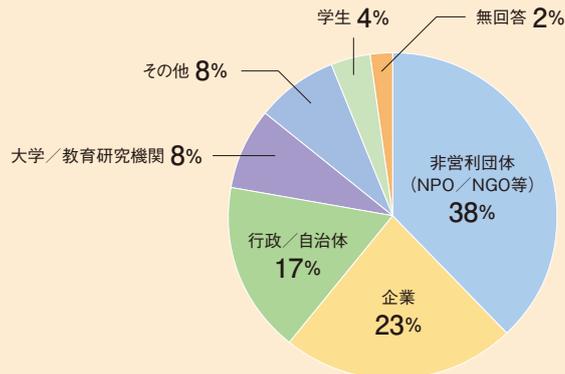
より多くの方に、全国のトップランナーの取り組みを知っていただくため、観客の視点から「地球温暖化防止のための活動」を評価していただくという試みの元、温暖化対策に係る専門の方々をはじめ、広く一般の方に「ゲスト審査員」を公募しました。（公募期間：2017年12月～2018年1月頃まで）

ゲスト審査員は、ファイナリスト30団体すべてのプレゼンテーション発表を観覧し、最も感銘を受けた2団体へ投票することができます。当日は多くの方にゲスト審査員として審査いただき、投票の結果「オーディエンス賞」2団体が決定いたしました。

審査方法

- ・ファイナリスト30団体すべてを見て、審査をする。
- ・全団体の中から、“地球温暖化防止のための活動”として最も感銘を受けた2団体を選び投票する。
- ・得票数の結果、上位2団体にオーディエンス賞を授与する。

ゲスト審査員の属性



n=48

ゲスト審査員票で選ばれた「オーディエンス賞」！ ～ ランキング5位までの団体ご紹介 ～

順位	団体	所在地
1	草津市立渋川小学校	滋賀県
2	米子工業高等専門学校 物質工学科谷藤研究室	鳥取県
3	認定NPO法人芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館	東京都
4	岩手県立遠野緑峰高等学校	岩手県
5	越谷市立大袋東小学校	埼玉県
	NPO法人循環生活研究所	福岡県



感想

- ・それぞれ地域特性に即した取組と感じました。参考にさせていただきます。低炭素杯、続けていって欲しいと思います。
- ・どれももったいない精神のある良い発表でした。若い世代から年配の方までの3世代の取組に関心を持ちました。生ごみから作ったバイオガスが聖火になる話はとても心に残り、東京オリンピックに是非採用して欲しいと思いました。
- ・30でも多いと感じるくらい内容が濃いので、ファイナリストは各部門5つくらいに絞るとよいと思いました。もっと一つ一つをしっかりと聴きたかったです。
- ・どの活動の内容も素晴らしいものである。さらに各プレゼンに工夫がなされ、より理解できました。特にジュニ・キッズ・学生たちのプレゼンに感心しました。
- ・小学生・中学生の環境の取組みに感動しました。特に地球のことを考えるためには、まず人とのつながりを大切に、感謝の気持ちを育てることが大切なのだと気づかされました。自分たちが出来ることで環境を考えていく取組みが素晴らしいと思います。
- ・ESD、SDGs、COOL CHOICEといった、昨年まであまり聞かなかったようなキーワード出て、出ただけでなく理解も実践も深化・進化したものが（特に子供たち）多く驚きました。楽しかったです。ありがとうございました！
- ・技術的なものから人々に意識改革を促す活動など様々な団体があり、見ごたえのある発表でした。キッズ・学生の取組みが企業・産業に取り入れられ、連携・販売につながっていて、とても興味深く感じました。

低炭素杯2018 広報掲載 一覧

「低炭素杯2018」ではエントリー募集から、開催結果まで、全国的に幅広く記事を取り上げていただきました。本紙ではその内の、ごく一部を抜粋してご紹介いたします。

2017年

- 7月 21日 WEBサイト 鳥取県公式ホームページ
- 7月 27日 WEBサイト EICネット
- 7月 27日 WEBサイト 山口県産業廃棄物協会 ホームページ
- 7月 28日 WEBサイト 中国環境パートナーシップオフィスホームページ
- 8月 1日 WEBサイト おきなわアジェンダ21県民会議オフィスホームページ
- 8月 1日 WEBサイト 沖縄県公衆衛生協会ホームページ
- 8月 1日 WEBサイト 大分県産業廃棄物協会ホームページ
- 8月 2日 ラジオ Fm yokohama 「E-ne! ~good for you~」
- 8月 2日 WEBサイト 愛媛県地球温暖化防止活動推進センターホームページ
- 8月 7日 新聞 水道産業新聞
- 8月 9日 WEBサイト BLUE SHIP ホームページ
- 8月 18日 WEBサイト NPOわかやま環境ネットワーク ホームページ
- 8月 23日 新聞 日本下水道新聞
- 8月 24日 WEBサイト ルー大柴さん 公式Twitter
- 9月 6日 WEBサイト 毎日小学生新聞 ホームページ
- 11月 22日 WEBサイト 環境展望台:国立環境研究所 環境情報メディア ホームページ
- 12月 1日 WEBサイト 市報ひがしね平成29年12月1日号 No1341
- 12月 6日 WEBサイト エコロジーオンライン 公式ブログ
- 12月 11日 WEBサイト エコロジーオンライン 公式ブログ
- 12月 11日 WEBサイト エコファクトリー ホームページ
- 12月 18日 WEBサイト 株式会社ODKソリューションズ メールマガジン
- 12月 18日 WEBサイト 学校法人静岡理工科大学 星陵中学校 ホームページ
- 12月 18日 WEBサイト 常磐大学・常磐短期大学 ホームページ
- 12月 19日 WEBサイト NPO法人循環生活研究所 Facebook
- 12月 25日 WEBサイト 福島県地球温暖化防止活動推進センター ホームページ



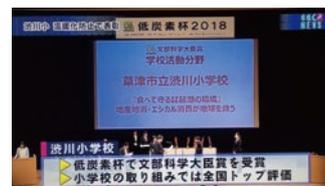
山陰中央新報 (2018年2月16日)



水道産業新聞 (2017年8月7日)

2018年

- 1月 19日 WEBサイト BLUE SHIP ホームページ
- 1月 22日 WEBサイト 株式会社山全 ホームページ
- 1月 25日 WEBサイト 株式会社山全 ホームページ
- 1月 31日 WEBサイト 日本バイオ炭普及会 ホームページ
- 2月 5日 WEBサイト ストップ温暖化センターとちぎ ホームページ
- 2月 6日 WEBサイト こどもエコクラブ ホームページ
- 2月 9日 WEBサイト 池田ケーブルネット YouTubeニュース動画
- 2月 9日 新聞 タウンニュース
- 2月 9日 WEBサイト タウンニュース ホームページ
- 2月 11日 WEBサイト 逆川こどもエコクラブ 公式ブログ
- 2月 15日 WEBサイト 佐賀新聞LIVE
- 2月 15日 WEBサイト 学校法人静岡理工科大学 星陵中学校 ホームページ
- 2月 15日 WEBサイト 静岡県地球温暖化防止活動推進センター 公式ブログ
- 2月 15日 WEBサイト 環境学習交流&岩手県温暖化防止センター Twitter
- 2月 15日 WEBサイト 環境省 ホームページ
- 2月 15日 WEBサイト 東京新聞 ホームページ
- 2月 15日 WEBサイト 富士ゼロックス福島オリジナルツールプラス Twitter
- 2月 16日 WEBサイト ルー大柴さん 公式Twitter
- 2月 16日 新聞 愛媛新聞
- 2月 16日 新聞 伊勢新聞
- 2月 16日 新聞 茨城新聞
- 2月 16日 新聞 河北新報
- 2月 16日 新聞 岩手日報



びわ湖放送「キラリン滋賀」 (2018年2月23日)



四国新聞社 (2018年2月16日)

2018年

- | | | | | | |
|--------|--------|---------------------------|--------|--------|------------------------------|
| 2月 16日 | WEBサイト | 器のギャラリー光(こう) 公式ブログ | 2月 21日 | WEBサイト | 大阪府 ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 岐阜新聞 | 2月 21日 | WEBサイト | BtoBプラットフォーム業界チャンネル ホームページ |
| 2月 16日 | WEBサイト | 区役所通り登栄会商店街振興組合 Facebook | 2月 21日 | WEBサイト | 佐賀県教育委員会 ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 佐賀新聞 | 2月 22日 | WEBサイト | エコ・ファースト推進協議会 ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 埼玉新聞 | 2月 22日 | WEBサイト | JPubb ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 山陰中央新報 | 2月 22日 | WEBサイト | BtoBプラットフォーム業界チャンネル ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 山形新聞 | 2月 22日 | WEBサイト | ストップ温暖化センターみやぎ ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 山口新聞 | 2月 23日 | テレビ | びわ湖放送「キラりん滋賀」 |
| 2月 16日 | 新聞 | 山梨日日新聞 | 2月 23日 | WEBサイト | アミンチュてれびBBC ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 産経新聞 | 2月 23日 | WEBサイト | Yahoo!ニュース (BBCびわ湖放送) 動画ニュース |
| 2月 16日 | 新聞 | 四国新聞 | 2月 24日 | テレビ | びわ湖放送「滋賀経済NOW」 |
| 2月 16日 | 新聞 | 秋田さきがけ | 2月 25日 | テレビ | びわ湖放送「滋賀経済NOW」 |
| 2月 16日 | 新聞 | 上毛新聞 | 2月 27日 | WEBサイト | 富士ゼロックス ニュースリリース |
| 2月 16日 | 新聞 | 神奈川新聞 | 2月 27日 | WEBサイト | 櫻田彩子の千駄木暮らし 公式ブログ |
| 2月 16日 | 新聞 | 西日本新聞 | 2月 27日 | WEBサイト | CNET Japan ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 静岡新聞 | 2月 27日 | WEBサイト | J-CASTトレンド ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 中國新聞 | 2月 27日 | WEBサイト | zakzak ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 長崎新聞 | 2月 27日 | WEBサイト | 共同通信PRワイヤー ホームページ |
| 2月 16日 | WEBサイト | オルタナ ホームページ | 2月 27日 | WEBサイト | SANSPO.COM ホームページ |
| 2月 16日 | WEBサイト | 新建ハウジング ホームページ | 2月 27日 | WEBサイト | AFPBB News ホームページ |
| 2月 16日 | WEBサイト | Yahoo! ニュース | 2月 27日 | WEBサイト | エキサイトニュース ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 東奥日報 | 2月 28日 | WEBサイト | こどもエコクラブ ホームページ |
| 2月 16日 | 新聞 | 東都新聞 | 3月 18日 | テレビ | フジテレビ「見逃せない子供の疑問」 |
| 2月 16日 | 新聞 | 徳島新聞 | | | |
| 2月 16日 | 新聞 | 奈良新聞 | | | |
| 2月 16日 | 新聞 | 福井新聞 | | | |
| 2月 16日 | 新聞 | 福島民報 | | | |
| 2月 16日 | 新聞 | 福島民友 | | | |
| 2月 16日 | 新聞 | 北日本新聞 | | | |
| 2月 16日 | 新聞 | 琉球新報 | | | |
| 2月 16日 | WEBサイト | 鈴木俊 個人Twitter | | | |
| 2月 17日 | WEBサイト | エコなうつわ屋さん ホームページ | | | |
| 2月 19日 | WEBサイト | 大分県地球温暖化防止活動推進センター ホームページ | | | |
| 2月 19日 | WEBサイト | ユニ・チャーム ホームページ | | | |
| 2月 20日 | WEBサイト | アサヒグループホールディングス ホームページ | | | |
| 2月 21日 | WEBサイト | Jumpei Mokudai Twitter | | | |
| 2月 21日 | WEBサイト | 愛知の商業教育 ホームページ | | | |
| 2月 21日 | WEBサイト | 逆川こどもエコクラブ 公式ブログ | | | |
| 2月 21日 | WEBサイト | 佐賀商業高等学校 ホームページ | | | |



他、メルマガ、Facebook、twitter、ロコミ、ブログ等で
たくさんの方に広報協力いただきました。
本当にありがとうございました。



ご協力いただいたみなさまのご紹介

アンバサダー専用ロゴ

“一般アンバサダー”として広報面で活躍いただきました!

今年度は、低炭素杯2018アンバサダーのルー大柴さんに加え「低炭素杯」を草の根的に広めることを目的に、これまで低炭素杯に出場したことのある方の中から、「低炭素杯“愛”」にあふれる方を一般アンバサダーとして認定することを試行的に実施しております。その第一弾として今年は3名の方にご就任頂きました!



● 元 栃木農業高等学校 教諭 小森 芳次 様

低炭素杯は、世代を超え地域性豊かなイノベーション発掘の場であると思います。栃木農業高校は、低炭素杯2012、2013の大会にて2年連続環境大臣賞グランプリを受賞させていただきました。高校生が地域復興と環境保全を掲げ「農村が元気になれば日本の原風景がよみがえる」を合言葉に取り組みました。生徒にとって全国大会で得たかけがえのない経験は、最高の思い出となり、卒業後社会人として「生きる力」を育む原動力となっています。



● 一般社団法人 FMおとくに 専務理事 木本 直樹 様

言葉巧みに校長を煽り? 児童と保護者、先生方を巻き込んで出場してきた低炭素杯。毎日の発表練習や大会当日とかなりのご負担でしたが、小学校は校長が2代変わっても学校行事に私を呼んでくれ、低炭素杯がきっかけで関りが深まったことに感謝しています。一昨年市役所を早期退職し、現在は地域のラジオ局を立ち上げるべく日々奔走中。ラジオ局が開局したら、地域で頑張る人たち、そして子どもたちの声を届けたいと思っています。



● 佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部長 橋本 翼 様

佐賀市では、暮らしから出る「下水」をきちんと処理するとともに、下水を資源として捉えて発電や農業等に利用し、低炭素な下水処理の実現に努めています。この度は、前回のグランプリ受賞を切欠に、アンバサダーに選んでいただきました。低炭素杯を通じ、環境改善への熱い思いを持った皆様と繋がれて、今回も多くの知恵を学ばせていただきました。皆様から頂いた刺激も活かし、今後とも低炭素な循環型の取組みを推進します。

“協力団体”として広報面・当日のスタッフとしてもご協力いただきました!

こどもエコクラブ全国事務局 (公益財団法人 日本環境協会)

こどもエコクラブとは、幼児から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブで、現在登録クラブ数が2,013件程あります。

今年度「ジュニア・キッズ部門」の新設により、子供たちの応募を促進するべく、こどもエコクラブに協力いただき、登録クラブにエントリー募集の声かけをしていただきました。結果、ファイナリストの中で4団体がこどもエコクラブの関係／登録団体でした!

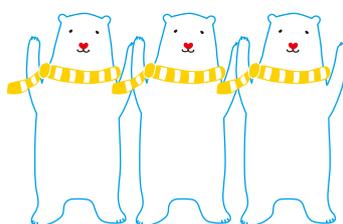


自動車教習所 ファインモータースクール

ファインモータースクールは、低炭素杯で何度も出場/受賞している常連団体で、免許取得の際に自然とエコドライブが身につく「楽エコ教習」を基軸に、小学校でのエコドライブ寸劇や、自治体職員向けのエコドライブ指導者養成など、多様な取組を通じて「エコドライブ」の普及を行う自動車教習所です。今年度は当日に、受付スタッフとして手伝っていただき、事務局と一緒に汗を流していただきました!



わ〜いわ〜い



ご寄付いただいたみなさまのご紹介

全国各地の多種多様な方々の優れた取組を広く伝え、交流・連携を図る場である「低炭素杯」は、この8年間に全国から数千団体にご応募いただき、計300団体を超えるファイナリストがステージ上で自らの取り組みを発表しています。

参加者同士の新たな共同事業展開という嬉しい成果も生まれております。この動きをさらに進化させ、「低炭素杯」を持続して開催していく為には、想いに賛同・共感して下さる皆様のサポートが必要です。

今年度は以下の皆様方にご寄付をいただきました。

／ ありがとうございます! ／

～ 直接寄付をいただいたみなさま ～

- 株式会社ひまわり 様
- 株式会社リビエラ 様
- 倉持産業株式会社 倉持 一彦 様
- 有限会社尾塚水産 様
- しずおか未来エネルギー株式会社 様
- 富谷電力株式会社 様
- 小宮山 宏 様
- 川北 秀人 様
- 岩田 治郎 様
- 野口 正一 様



計 302,958円

～ 古本募金に参加いただいた皆様 ～

このたび、低炭素杯では本やDVDなど使い終わったものをリサイクル換金して寄付できる、「古本募金(きしゃぼん)」を実施し、以下の皆さまから古本募金でのご寄付をいただきました。

- 藤本 滋生 様
- 櫻田 彩子 様
- 力石 伸夫 様
- NPO法人環境活動センター八王子 様
- 富士ゼロックス福島端数倶楽部 様
- 山口県地球温暖化防止活動推進センター 様
- 公益財団法人キープ協会 環境教育事業部 田村のり子 様
- 竹林 嘉弘 様
- 宮腰家 様
- 低炭素杯2018会場に本を持参していただいた皆様
- 地球温暖化防止全国ネット 様

計 34,142円

皆様から頂いた協賛・寄付金はファイナリスト参加費用や、会場費等の運営資金に大切に使用させていただきました。是非とも来年の「低炭素杯」開催のため、引き続きご支援をお待ちしております!

支援方法

■ 寄付する

5,000円/ロコース

特典 ・ 報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付

10,000円/ロコース

特典 ・ 報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付
・ 次年度の低炭素杯交流会への招待(1名様まで)

20,000円/ロコース

特典 ・ 報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付
・ 次年度の低炭素杯交流会への招待(2名様まで)

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキユウ)店(019)
当座 0791958
ティタンソハイジムキョク
低炭素杯事務局

※口座名義の前に必ずお電話番号をご入力ください。

■ 古本募金で寄付する ～0円で寄付しよう～

皆様に負担いただく費用は0円です!

本を5冊以上集めて と検索し、申し込みフォームに則って入力すれば手配完了です。ご希望の日程に本の集荷業者が参ります。



※特典内容は、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

〈参考情報〉これまでの歩み



低炭素杯2017

- 開催日：2017年2月16日(木)
- 会場：日経ホール
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部(佐賀県)
「昔に帰る未来型 ～佐賀市下水浄化センターを「宝を生む施設」に～」
- 総エントリー数：951件
- ファイナリスト数：26件



低炭素杯2016

- 開催日：2016年2月16日(火)・17日(水)
- 会場：日経ホール
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
しずおか未来エネルギー株式会社(静岡県)
「静岡発!! みんなで創る地域発電所」
- 総エントリー数：1,993件
- ファイナリスト数：38件



低炭素杯2015

- 開催日：2015年2月13日(金)・14日(土)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
下川町(北海道)「地域資源“森林”を活用したエネルギー自給型小規模自治体モデルの構築
～誰もが暮らしたいまち、誰もが活力あるまち～」
- 総エントリー数：1,730件
- ファイナリスト数：39件



低炭素杯2014

- 開催日：2014年2月14日(金)・15日(土)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
株式会社ウジエスーパー&株式会社ウジエクリーンサービス(障害者特例子会社)(宮城県)
「『エコーガニックwithノーマライゼーション』食品スーパーが提案する環境ループ事業」
- 総エントリー数：1,620件
- ファイナリスト数：41件



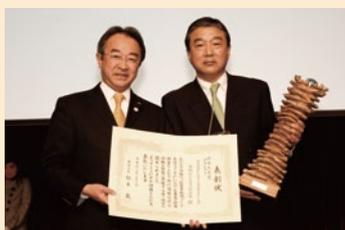
低炭素杯2013

- 開催日：2013年2月16日(土)・17日(日)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班(栃木県)
「麻の郷とちぎの環境資源を次世代に」
- 総エントリー数：1,371件
- ファイナリスト数：40件



低炭素杯2012

- 開催日：2012年2月18日(土)・19日(日)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
栃木農業高等学校 地域おこしプロジェクト班(栃木県)
「守れヨシの湿原、とりもどせ農村のヨシズ作り」
- 総エントリー数：108件
- ファイナリスト数：41件



低炭素杯2011

- 開催日：2011年2月5日(土)・6日(日)
- 会場：東京大学安田講堂
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
環境NPOオフィス町内会(東京都)
「森の町内会(新たな仕組みによる干ばつ促進と森林のCO₂吸収)」
- 総エントリー数：70件
- ファイナリスト数：47件



一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事長

長谷川 公一

2018年は、全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)や地域地球温暖化防止活動推進センターの役割などを定めた地球温暖化対策推進法(温対法)が成立して、ちょうど20年です。京都議定書からパリ協定へ、世界は気温上昇を2度以下に抑えるために、政府も自治体も、企業も学校も地域社会も、真剣な取組を加速しています。

低炭素杯2018は、折しも平昌オリンピックの熱戦の真っ只中、2月15日に開かれました。低炭素杯2014もソチ・オリンピックの熱戦の最中でした。ザギトワ選手やメドベージェワ選手、宮原知子選手らが妙技を見せたフィギュアスケートの女子フリーの演技時間は4分間。低炭素杯のプレゼンテーションとちょうど同じ時間です(男子は4分30秒)。日経ホールでも30組のファイナリストが、ホットでクールな4分間のプレゼンテーションを競い合いました。それぞれ自己ベスト更新の見事な出来栄でした。

グランプリに輝いた岩手県立遠野緑峰高校の「ホップ和紙開発プロジェクト」は、地域の特産品ホップの廃棄されてきた蔓の繊維から和紙を作り、卒業証書や名刺に活用する、遠野物語をモチーフとした行灯を製作するというものです。

「砂地にみどりを」という花王鹿島工場の社員全員が砂地に記念植樹を行い、社員の森がやがて鬱蒼とした地域の森になったという35年あまりの取り組みも大変感動的でした(オルタナ最優秀ストーリー賞を受賞)。

30のファイナリストのプレゼンテーションには、世界中の政治家やビジネス・パーソンへのヒントが満ちていました。

低炭素杯 Low Carbon Cup という全国的なコンペティションがあるのはわが国だけです。しかもすでに8回。前身の地球温暖化防止一村一品全国大会から数えると11回も開催しています。

日本が世界に誇る低炭素杯。第9回の「低炭素杯2019」は、いよいよ、あなたの出番です。

「低炭素杯2019」のファイナル・ステージでは是非お目にかかりましょう。地域に根を下ろしたあなたの、「低炭素ファースト」＝「地球ファースト」の取り組みを世界中に発信してください。



主 催 低炭素杯実行委員会

共 催



特別協賛



協 賛



協 力



後 援



事 務 局

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット (JNCCA)

お問い合わせ先



低炭素杯事務局(〔一社〕地球温暖化防止全国ネット内)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3

第一アマイビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100

<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>



この印刷物は、FSC® 認証紙を使用し、VOCを発生しない「UVエコインキ」を使い、「水なし印刷」で印刷しています。また、省資源化(フィルムレス)に繋がるCTPIにより製版しています。

